



琥珀  
高慢と悲鳴

作 切傷甲

「え？ もうお金  
払えない？」

「あっそ！  
じゃあ 明日から  
アンタもイジメの  
対象だからね！」

「うわあ！  
ビドリの  
点数！」  
「アタシがうた  
恥ずかしく  
生きていけ  
ない！」

「頭悪い人って  
羞恥心も無いの？」

「聞いたわよ  
アンタの両親  
略奪婚らしい  
じゃない？」

「人の物を欲しが  
る卑しい血が流  
れているのね  
おこわ！」

「そんな足の  
短マでよく  
アイドルなんて  
出来るわねえ」

「プツッ！  
チッマ！」

「やだやだ……  
レベルの低い  
奴らばっか！」

「もう少し  
アタシを見習って  
欲しいわ！」



「お前ち  
どうしたんだ？」

「先生！  
私達も  
耐えられませんか！」

「シャーリーの  
ワガママに皆  
苦しんでるんです！」

「もうこんな  
学校生活  
耐えられない！」

「なるほど……  
さいつは大変そうだ  
先生がなんとか  
してやろう……  
ククク……！」

「おい  
シャーロット！  
お前ちよつと  
やりすぎだぞ！」

準備室

「もつと皆と  
仲良くしよう  
と思わないのか!？」

「はあ……？」

「聞いたぞ  
お前が友達に  
いやがらせばかり  
してらってるぞ」

「そんな事して  
心が傷ま  
ないのか？」

「……………」

「友達？ 誰が!?  
アイツらは動物よ!」

「下等な連中を  
畜生扱いして  
何が悪いって  
言うのよ!」

「何だこ!?」

「!!」

「成る程な……  
それがお前の理論か」

「自分より劣った  
人間は畜生扱いして  
良いんだな?」

「なっ ちよっ……!」

「は 離しなさいよ  
ゴミクズ!!」

「そ せうよ!  
クズはクズ扱い  
マれるべきなのよ!  
アンタも一緒よ!」

「うるせえんだよ!!」

「!？」

「きゃああああっ!!」

キリッ!

「オラァ!!  
クソガキがあ!!」

バ  
ク

「うざやつ!!」

「お 殴つた……!?  
このアタシを……!?」

「ゆ 許さない!!  
お父様に  
言い付けて  
やるんだから!!」

「クス風情が  
このアタシに手を  
上げた事を死ぬ程  
後悔してもしらうわ!!」

「何を偉そうに  
ほざいてやがんだ  
パイオツ丸出しにして  
言う台詞じゃねえだろが!!」

「えっ ばい……!?  
あ ああつ!!」

ほかん

「きやあああつ!!  
見るなあああつ!!」

「なんだ  
自分から見せてたんじゃない  
無かつたのが ククク」

「エロい巨乳見たり  
こんなになっちゃうわよ」

「ひっ!  
ひいっ!」

「どうにかしてくれよ  
シャーロットちゃん  
よあ〜!!」

「いやあああ!!  
触るなあああ!!」

「すい!

「おきん

「もみ!

「何でダメなんぞ?  
劣つた人間には  
どんな扱いしても  
良いんだろ?」

「ふ ふやけないで!!  
劣ってるのはアンタの  
方でしょうが!!」

「ズル

「俺が劣ってる?  
なり今すぐ俺に  
勝ってみろよ」

「弱っちい女じゃ  
無いって事を  
俺を跳ねのけて  
証明してみろや」

「あっ くっ ふやけ……!!  
アタシは何するつもりだ!!  
離して! 下着すらすな!!  
本当に人生終わらすわよ!!」



「いやあああつ!!  
やめてえええつ!!」

「はくしい!  
美少女おまんこ  
丸出し〜!」

びっ!

「ま まマカアタシを  
レイプするつもり!?」

「冗談じゃ無いわ!!  
アンタみちいなカスに  
犯されて充まるもんですか!!」

「あつ!」

ずるん

「ちよつと!  
見てないで  
助けてよ!!」

「この  
変態教師を  
何とかして!!」

「うひよお!  
色白美少女の  
生尻充まんねえ〜!」

「いやあああつ!  
そんな汚いモノ  
擦り付けないで!!  
誰か 誰かあ!!」

「誰も助けに来ねえよ!  
お前みちいな性悪女を  
救って何の得がある?」

「せ……  
せんまつ!!」

スリ スリ





「殺してやる……！  
本当に殺す……！」

「ひっ!! いやっ!!  
殺さないでっ!!  
お願いっ!!」

「マジでこの  
クソ弱っちい  
クソガキ  
ぶっ殺したく  
なっつて来ちぜ!!」

「殺しながら犯す!!  
犯しながら殺す!!」

「ザヤっ!!  
うざひいっ!!」

「お前が死んでも  
誰も悲しまねえ!!  
なら殺して良いよなあ!？」

「ぐっ ぐっじっ……!  
やめっ……!!  
ごろまないでえ……!!」

「ぐえっ……ぐえっ……  
ゆる……じでええ……」

はん!!  
はん!!  
はん!!  
はん!!  
はん!!

どは!!  
は!!  
は!!  
は!!  
は!!

ズビュルルルル!!

「殺されながら  
孕みやがれ!!  
シャーロットオオオ!!」

「うぐげえええええっ!!」

「げっ……! げえっ……!  
うげ……! うげええ……!」



ゴクゴク

ウツウツ

ズツッ!!

「うおおっ! 出る!  
ザーメン出まくるぜえ!」

「女王様気取るだけあつて  
最高の肉壺だぜえ……!」

「処女マンコの癖に  
チンポにネットリ絡みついて  
ちっとも離しやしねえ!」

「中出し止まらねえ！  
こんだけ出りゃ  
確実に孕んだな！」

「かはっ……！  
げっ……げえ……！」

「初セックスがレイプで  
おまけに孕まされるって  
どんな気分だ？ え？」

ギリ

ギリ

ギリ

ビュッ  
ビュッ

ビュッ

ビュッ

スルリ

「おつとすまねえ  
カ入れ過ぎちゃった」

「まだ殺すワケには  
いかねえよな？」

「げほっ……！  
げほっ……！」

「別にここで  
殺しちゃっても  
構わねえんだが  
後片付けが  
面倒だからな」

「それに もっと  
楽しませて  
もらいたいよあ」

「ちっぷりと  
犯してやるぜ  
シャーリーちゃん！」

グッ  
グッ



「お前らは善良で従順な生徒だよな？」

「俺の言ってる事理解出来るんだよな？」



「おお お前らどうだ 気分はスッキリしたか？」

「どうしてモジモジしてもしかして見てて濡れちゃったか？」

「安心しろ俺は善良な生徒は犯さない」

「して欲しいんなら別だがな……」

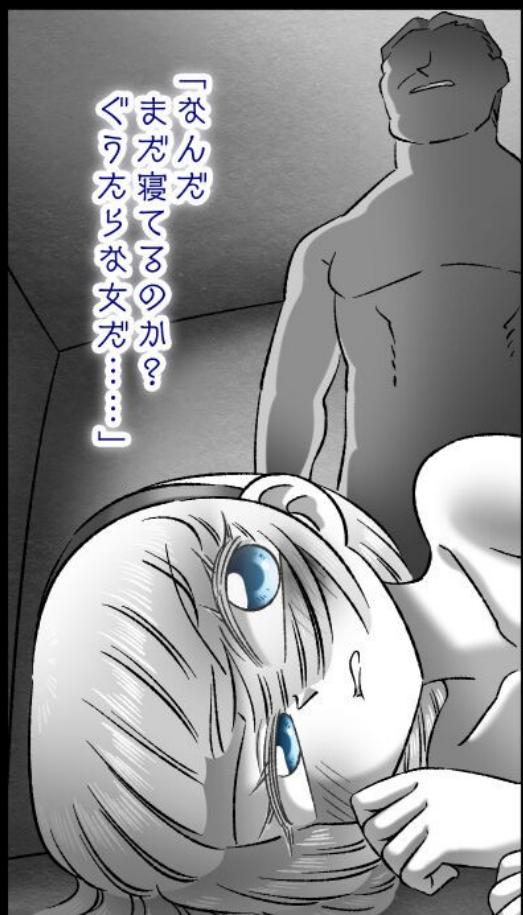


「ククク……」

「コイツも早く善良で従順な生徒にしてやらないとな」

「それで良いこれからしばらくシャーロットは俺が預かる」

「……は はい！この事は誰にも言いません……」



「なんだまだ寝てるのか？ぐうたんな女だ……」



「シャーロット……」

おん

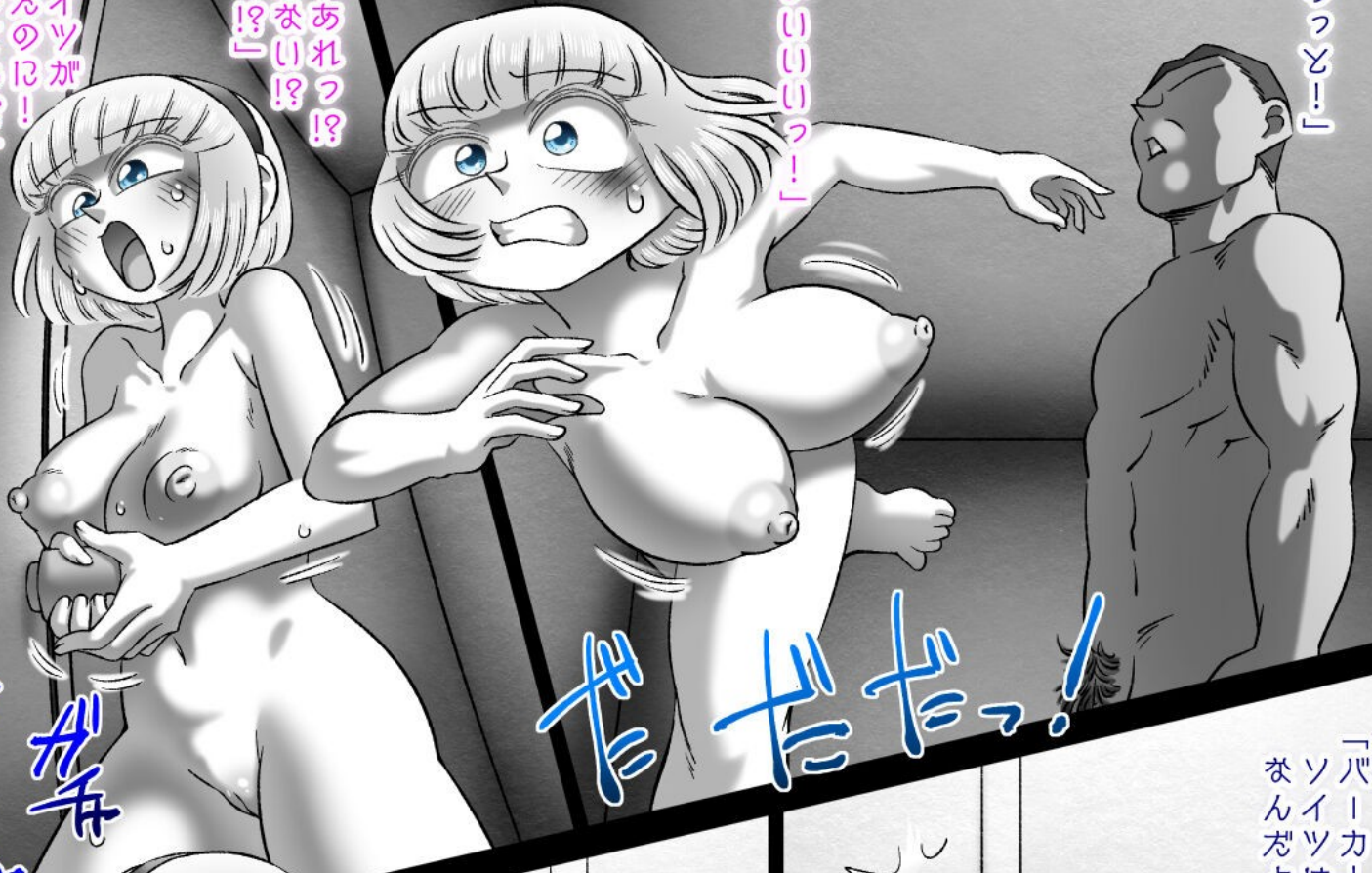


「おっ！」

「ひいひいっ！」

「あ あれっ!?  
開かない!?  
何で!」

「今アイツが  
開けたのに!  
どうしてえ!」



「バーカ!  
ソイツは引き戸  
なんだよ!」

「ノブをガチャガチャ  
回して  
開かねえんだよ!」

「!」

「うんしょっ!  
うんしょっ!」

どっ

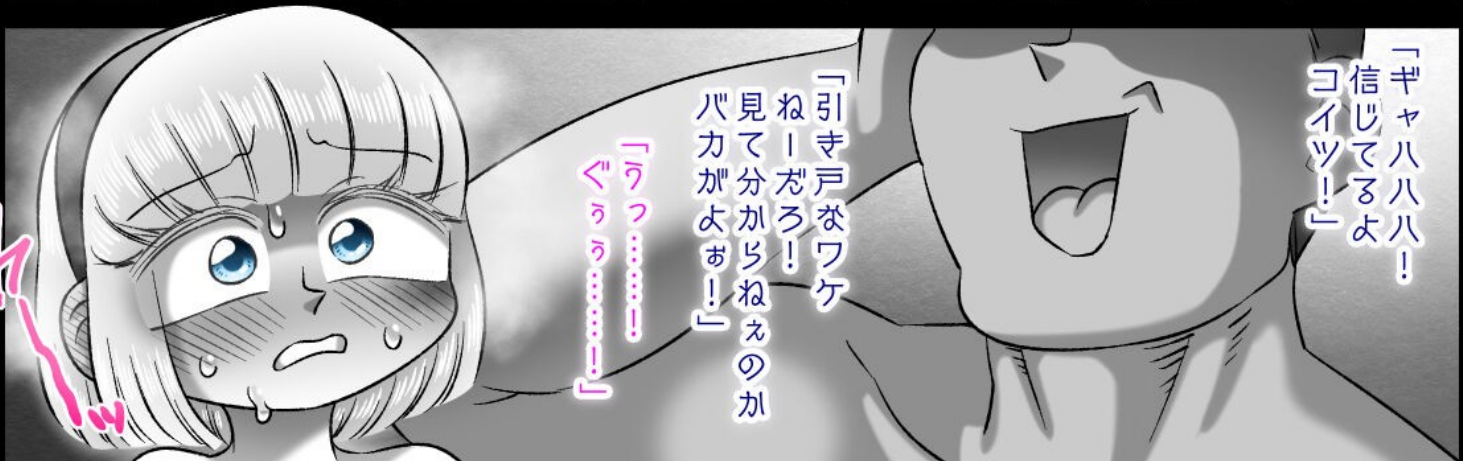
どっ

「ギャハハハ!  
信じてるよ  
コイツ!」

「引き戸をワケ  
ねーだろ!  
見て分からねえのが  
バカがよお!」

「うっ……!  
ぐうう……!」

ハ



「そんな簡単にこの地下室から逃がすと思ってるのか？」

「いや……」

「お前にはちっぷりとおシオキしてやる」

「来ないで……」

「人を蔑む権利なんて自分には無いって事をその身体で理解させてやる」

「ううう……」

「やだ……やだあ……」

「ズンズン」

「ブル」

「おっ おねっ お願いつ……！ 犯さないで……！」

「ガッ」

「ガッ」

「あ 謝るっ！ 謝るからっ！ ぞかられっ レイプしないでっ！」

「安心しろ……俺はレイプなんかしない……」

「えっ……？」

「俺はな……」

「お前をぶん殴りに来らんぞよ」

「……あ……」

「あ……いや……いやあ……」

「よし  
じゃあまずは  
渾身の一撃を  
腹にお見舞いするか」

「や やだっ!  
やめてっ……!」

「アタシっ 酷い事しただけ  
暴力だけは振るって無い!」

「いやっ! 来ないでっ!  
暴力は止めてっ!  
お願いだからっ!」

「うげっ!  
ぐげっ!  
おげえええっ!!」

「言い訳すんじやねえ  
クソがキイイ!!」

「大人しく殴られろ  
雑魚メスがああ!!」

**ズッ!**  
**ズッ!**  
**ズッ!!**

「うげっ!!  
ぐざいっ!!」

「やどけえ腹に  
俺の拳が  
食い込んでるぜ!」

「あつ おごっ!!  
げごっ うげっ!!」

「何が暴力は  
振るって無いぞコラ!  
言葉の暴力は  
人を死に追いやる  
事もあるんだよ!!」

ストゥ  
ストゥ  
ストゥ

ヒッ!

びしゃ

「デメエは人殺しと一緒だ!!  
人殺しは殺す!  
人殺し野郎を殺しても  
許されるんだよ!!」

「ちちがっ……!!  
うげっ ごろじでないっ!  
あどしっ ひとつごろしじゃ  
ないっ!!……!!」

「あうっ あうううっ げほっ  
うええっ うええええん……!!」

ゆさ  
ゆさ

いん

ガ  
ニッ!  
ヒッ!  
ヒッ!  
ヒッ!

アチャアア!

うほ  
うほ

しん

「泣けば許されると  
思ってたんのかコラ!」

「ぎゃふつ!! うぎゃひつ!!  
やめつ やめでええつ!!」

「なら思う存分鳴け!  
ガマガエルみてえによお!」

「げっ げえつ  
げぶらうつ!」

ゴス!  
ゴス!  
ゴッ!

「オラッ!  
好きなら  
吐いて来いや!!」

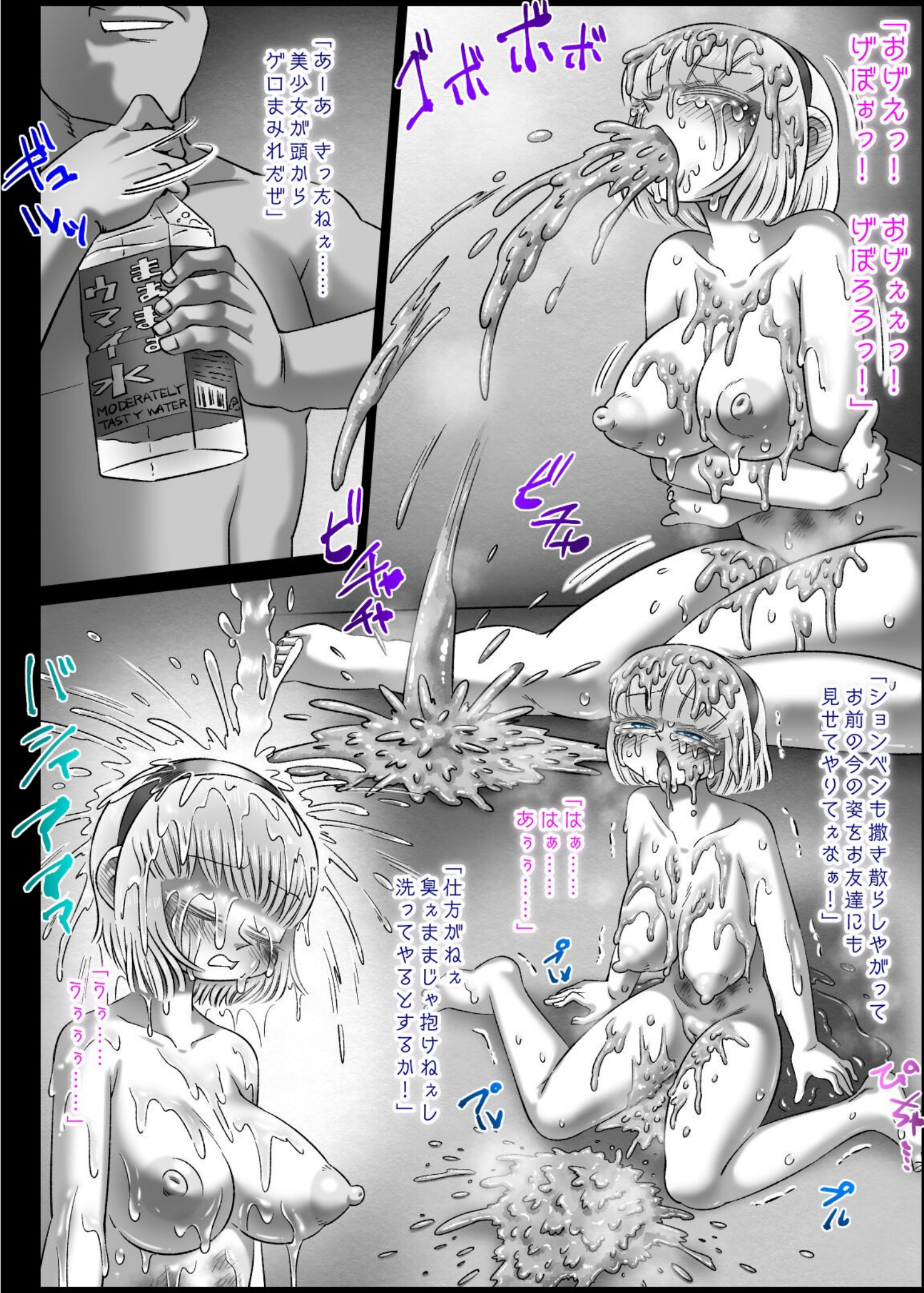
「げぼっ!!」

「げえええつ!  
おげえええつ!」

「げぼぼぼっ!  
げろろろろっ!!」

グッ!

びしゃあああ



「おげえっ!!  
げぼおっ!!  
おげええっ!!  
げぼろろっ!!」

ゴボボボ

「あーあ きつ方ねえ……  
美少女が頭から  
ゲロまみれだぜ」

ギョ  
ルッ

ビ  
キキキ

「はあ……  
はあ……  
あうう……」

「シヨンペンも撒き散らしやがって  
お前の今の姿をお友達にも  
見せてやりてえなあ!」

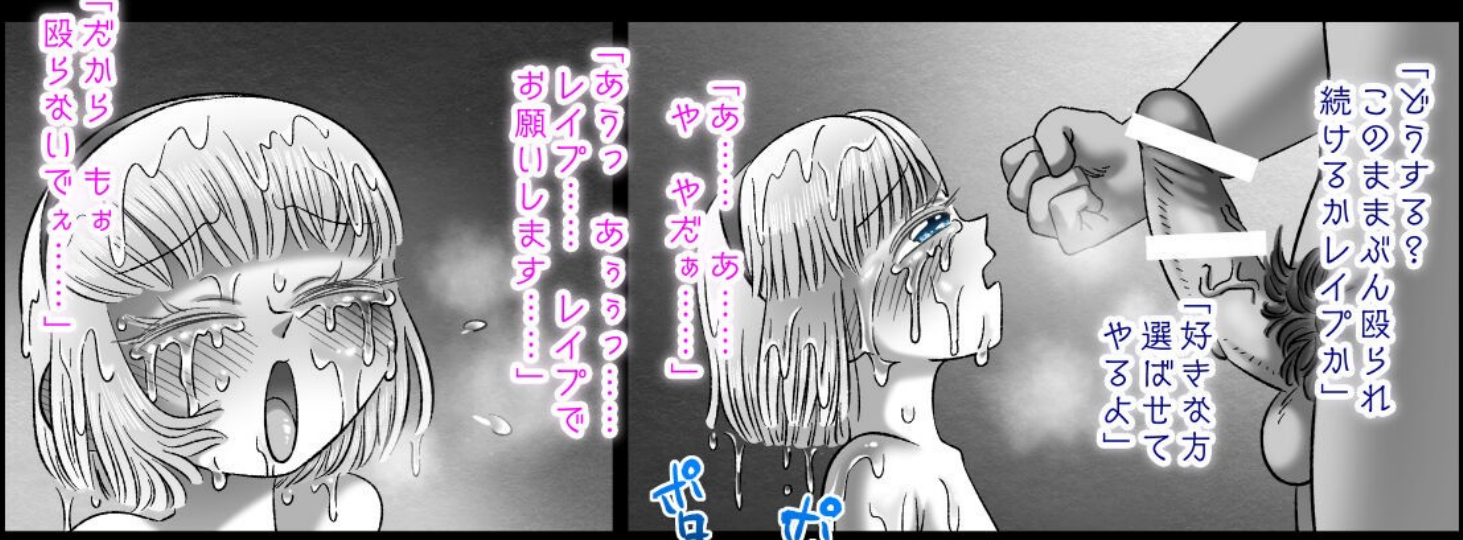
「仕方がねえ  
臭えままじや抱けねえし  
洗ってやるとするか!」

バ  
ク  
マ  
マ  
マ

「うう……  
ううう……」

び  
び

ブル



「どうする？  
このままぶん殴られ  
続けるかレイプか」

「好きなら  
選ばせて  
やるよ」

「あ……あ……  
や……やだあ……」

「あうっ あううっ……  
レイプ……レイプで  
お願いします……」

「だから  
もも  
殴らないで……」

ぱん  
ぱん



「よし じゃあレイプだ  
これはお前が選んだんだ  
お前が望んだ事なんだぜ？」

「自分から  
犯されたがるなんて  
とんでもねえオサセな  
女だな！」

「や……やだ……  
なんで……  
どうしてこんな事に  
なっちゃったの？」

ぐいっ

「このアタシが……  
こんな変態に……」



「日頃の行いのせいだろうが！  
この世は正義が勝つように  
出来てんだよ！」

又……

ぐぐぐ

「あう……  
あうう やだあ……  
入っちゃう……  
また犯されちゃうよ……！」



「ああっ やだっ いやっ!  
終わって! 早く終わってえっ!!」

「そんなに中出しが  
待ちきれねえのか?  
そんならちっぷりと  
注いでやるよ!!」

「オラッ! オラッ!  
孕めえええっ!!」

「いやあああああっ!!」

ばちゅん!!

せゅゅゅ!!

ばちゅん

ばちゅん

ばちゅん

ばちゅん

ばちゅん

せゅゅ!

「ああっ! 汚いっ!  
汚いっ!!」

「いやだあああっ!!」

「その汚えモンで  
テメエは妊娠  
するんだよオ!!」

びゅるる!!



「ああ……」

アホバ

アホバ



「ぐすっ  
ぐすっ……」

アホバ

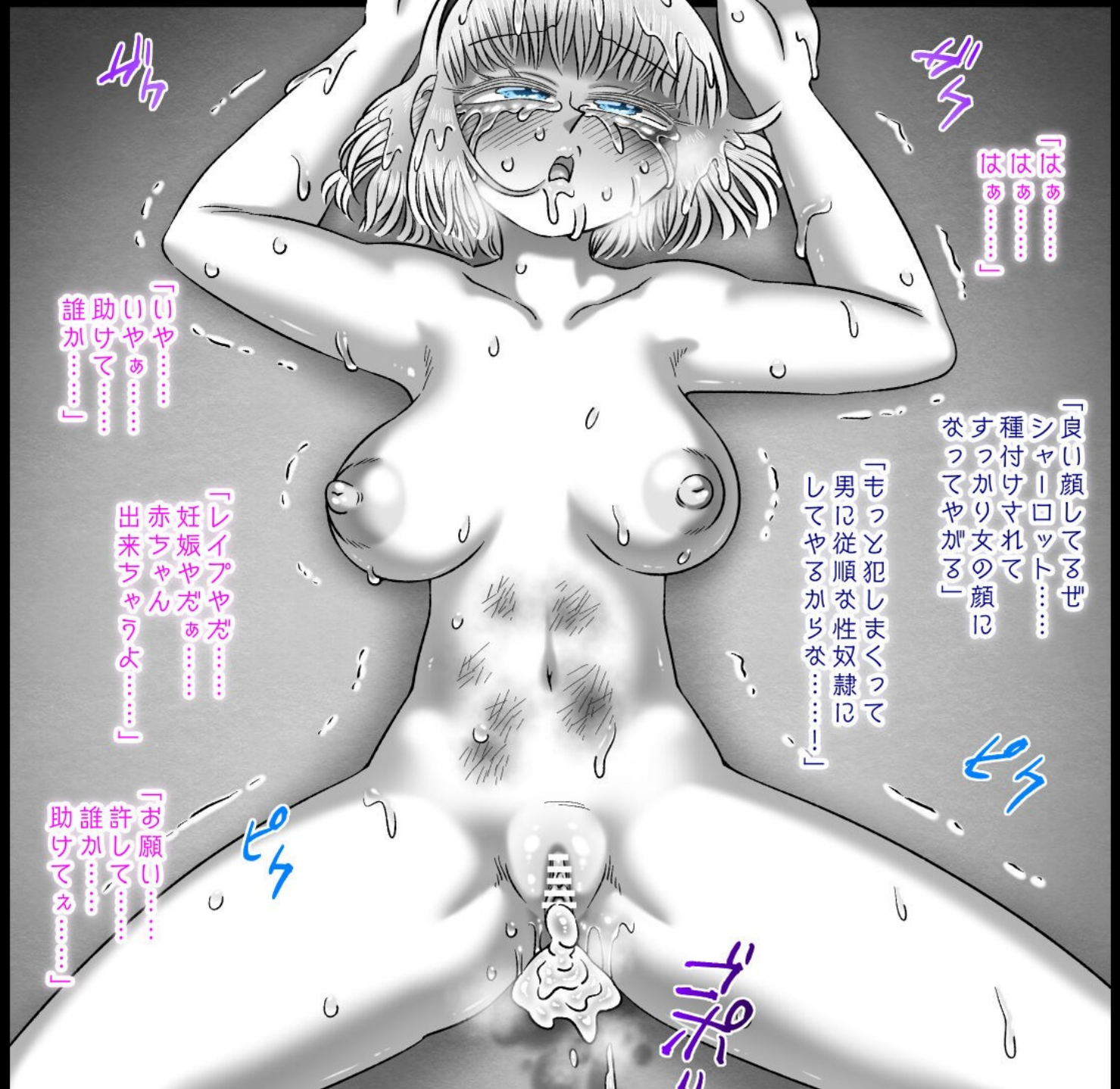


「身体だけは  
本当に  
イイ女  
だぜ……!」

「フリーッ  
フリーッ」

アホバ

アホバ



アホバ

アホバ

「はあ……  
はあ……  
はあ……」

「いや……  
いやあ……  
助けて……  
誰か……」

「レイプやだ……  
妊娠やだあ……  
赤ちゃん  
出来ちゃうよ……」

「良い顔してるぜ  
シャーロット……  
種付けマレで  
すっかり女の顔に  
なつてやがる」  
「もつと犯しまくって  
男に従順な性奴隷に  
してやるからな……!」

「お願い……  
許して……  
誰か……  
助けてえ……」

アホバ

アホバ

「シャーリーが  
消えてから  
二週間……」

「まだ彼女は  
先生に犯されて  
いるのかしら……」

「やっぱりアレは  
やりすぎ  
なんじゃ……」

「まさか先生が  
シャーリーを  
レイプする  
ぞなんて……」

「嫌な事はかり  
言われたけど  
そこまでする程  
じゃ無い……」

「いくら何でも  
可哀想……」

「あんなやり方  
間違ってるんだ」

「今からでも  
先生にやめて  
もらうべき？」

「大事になる前に  
止めないと……」

「平気！  
平気！」

「気にすんなって！」

「そうよ！  
ほつとけば  
良いのよ！」

「元はと言えばあの子が  
悪いんじゃない！  
自業自得よ！」

「そ……  
そうよね……」

「う……  
うん……」

「私達は  
悪く無い……」

「……ぞとよ  
友達はまだ  
お前を許して  
無いらしいぜ」

「……………」

「哀れだな……  
学校の秘密の地下室で  
犯され続けて……」

ズルル……

「必死に助けを求めて  
叫び続けろ結果が  
コレだなんて……」

……

「全く哀れで  
笑えて来るぜ」

ズル

ズル

ズルル

「グク……  
すっかり従順に  
なっ方なァ……」

……

ズル

ズル

ズル

ズル



「よし 出すぞっ!  
その生意気な面に  
ぶっかけませろ!」

びしょびしょ  
びしょびしょ!

「あああ……」

ドロク……

「しっかり飲み込め  
今のお前には精液も  
立派な栄養だからな」

「……………」

びしょびしょ

ドロク

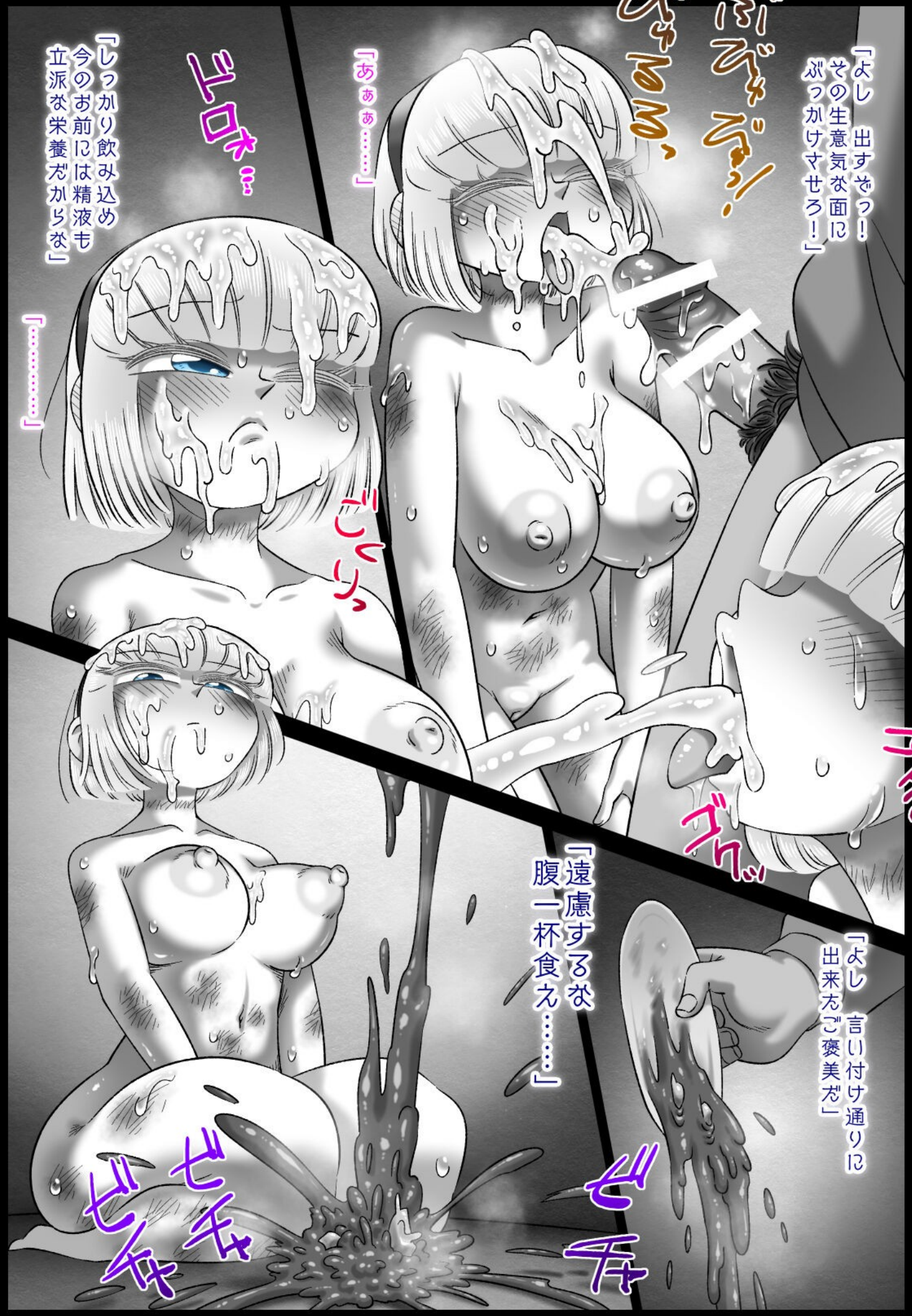
ゴク

「遠慮するな  
腹一杯食え……」

「よし 言い付け通りに  
出来たご褒美だ」

びしょびしょ

びしょびしょ



「卑しい私に  
お恵みくたまり  
ありがとうございます」

「全て残らず  
味わわせて  
頂きます……」

「クク……  
くっくっく……  
クヒヒヒ……」

ポチャ  
ポチャ

ポチャ

「なんて無様な  
姿だ……」

ベソ  
ベソ

「これがあの  
威張り散らしていち  
シャーロットとはねえ」

「ま 畜生以下の  
下劣なバカ女には  
お似合いの姿だよ」

……

ポン  
ポン

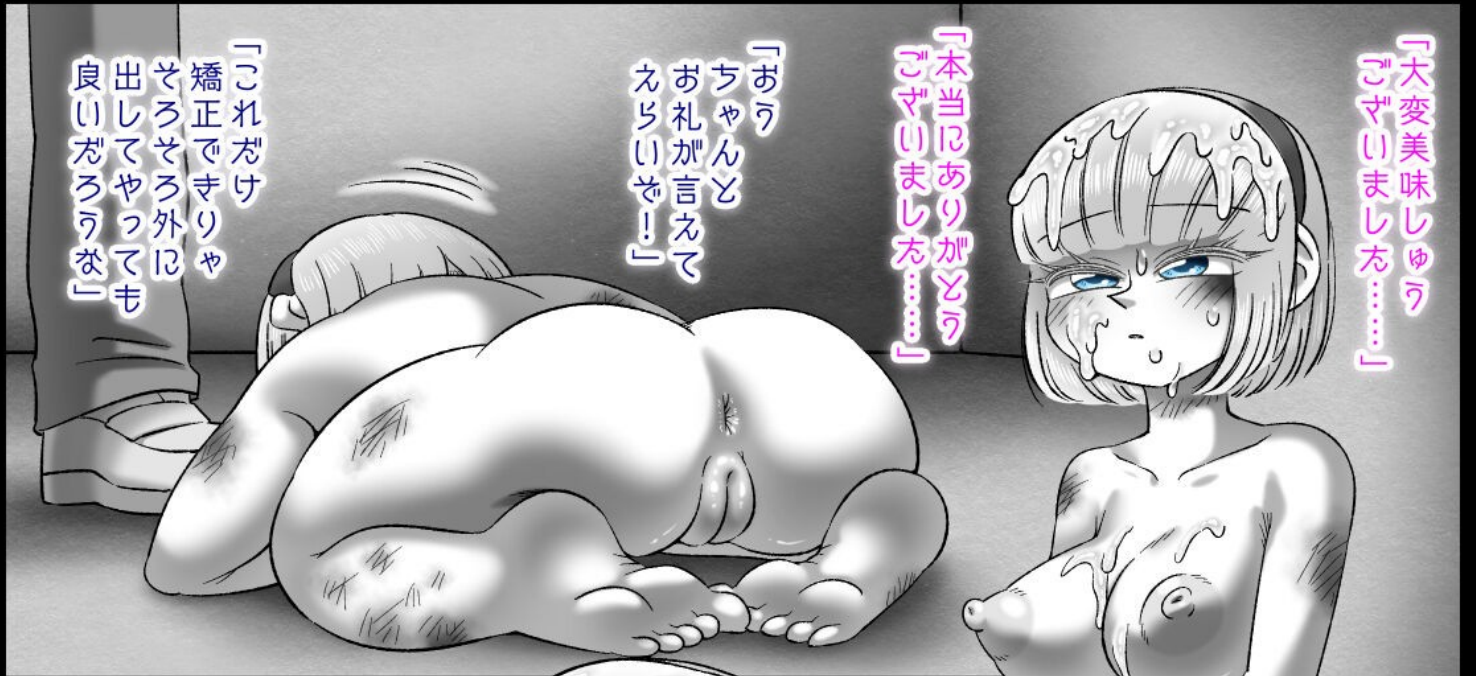
クチャ  
クチャ  
クチャ

「大変美味しゅう  
ございました……」

「本当にありがとら  
ございました……」

「おう  
ちゃんとお  
礼が言えて  
えらいぞ！」

「これだけ  
矯正できりゃ  
そろそろ外に  
出してやって  
良いだろうな」



「ゆ 許して  
くれるの!？」

「ああ だが……」

「最後の試験に  
合格できたら  
だがな……」



「……と言う  
ワケで……」

「シャーロットが  
ちゃんと反省してるが  
皆に判断してもらう」

「反省文を  
書かせたから  
皆聞いて  
やってくれ」

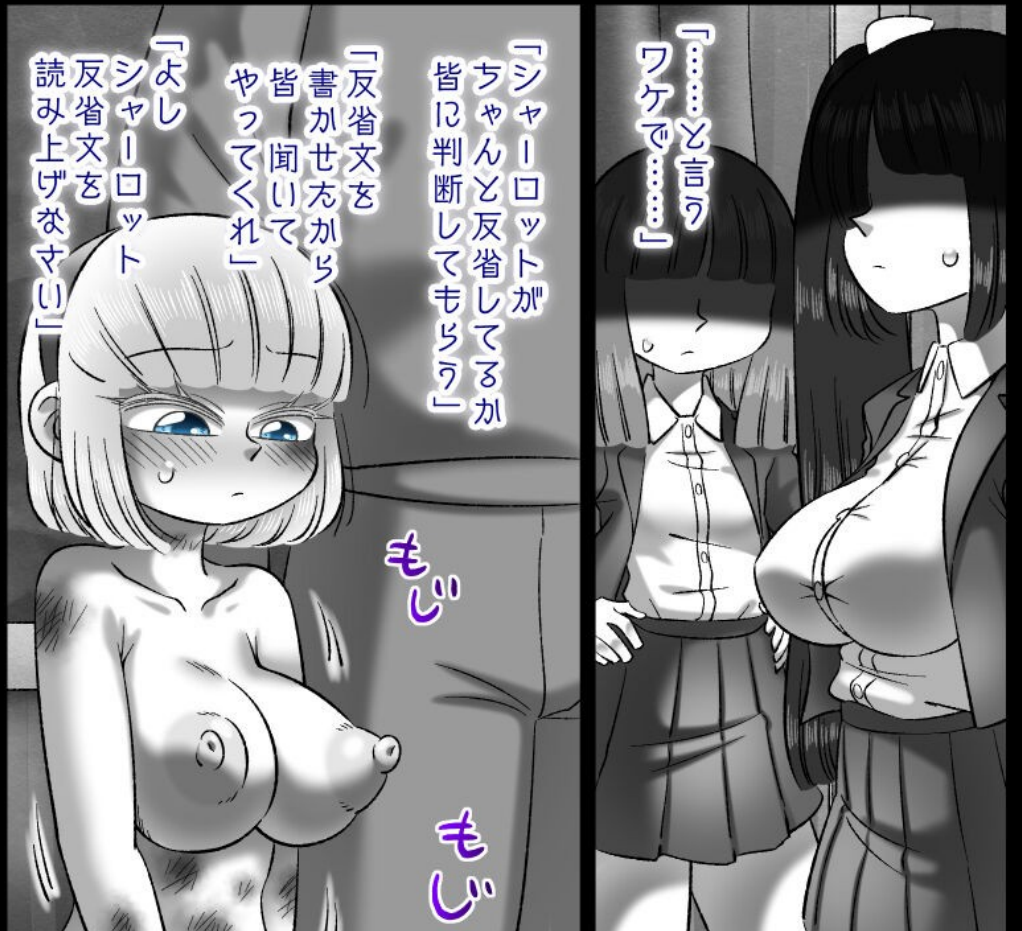
「よし  
シャーロット  
反省文を  
読み上げなさい」

もじ

もじ



「はい……」



ビクッ!

「あひっ!?!」



(何が反省文だクソ野郎……!!)

(アタシをここまでコケにしゃがんで! このまま外に出ろ! すぐママお父様に全て言い付けて全員破滅させてやる!)



(覚悟しろ下等生物共が……!!)

びるるるる



「ちよっ……!! いきなり何すんのよーっ!?!」

「本当に反省してるなら糞を我慢しなかりでもちゃんとして反省文を朗読出来るハズだろ?」

「なあに!! ちよっで洗腸しただけマ」

「はあ!?!」

(な 何言ってるの コイツ……?)

意味わかんない!



「ほーら早く読み始めないと浣腸液が染み込んで糞が漏れちゃうぞ?」

「くぅ……キモイ! 本当に最低! 覚えてなさいよ!」

「あアタシ……シャーロットは皆を罵つた事を深く反省しており……!」

「くそっ! 何よ! 何でこのアタシがウンチを我慢しながら反省文を朗読しなきゃいけないのよ!」

「こんな奴らの見てる前で!」

「服も着せて貰えず裸のまま……!」

「屈辱……! 屈辱よ!」

「絶対に許さない! 同じ目に……! いやこれ以上の酷い目に遭わせてやるんだから……!」  
「許さない……!」  
「許さない許さない許さない……!!」

「あっ!?!」

「あっ!?!」



「いやっ!!  
やだやだ!!  
やだあああ!!」

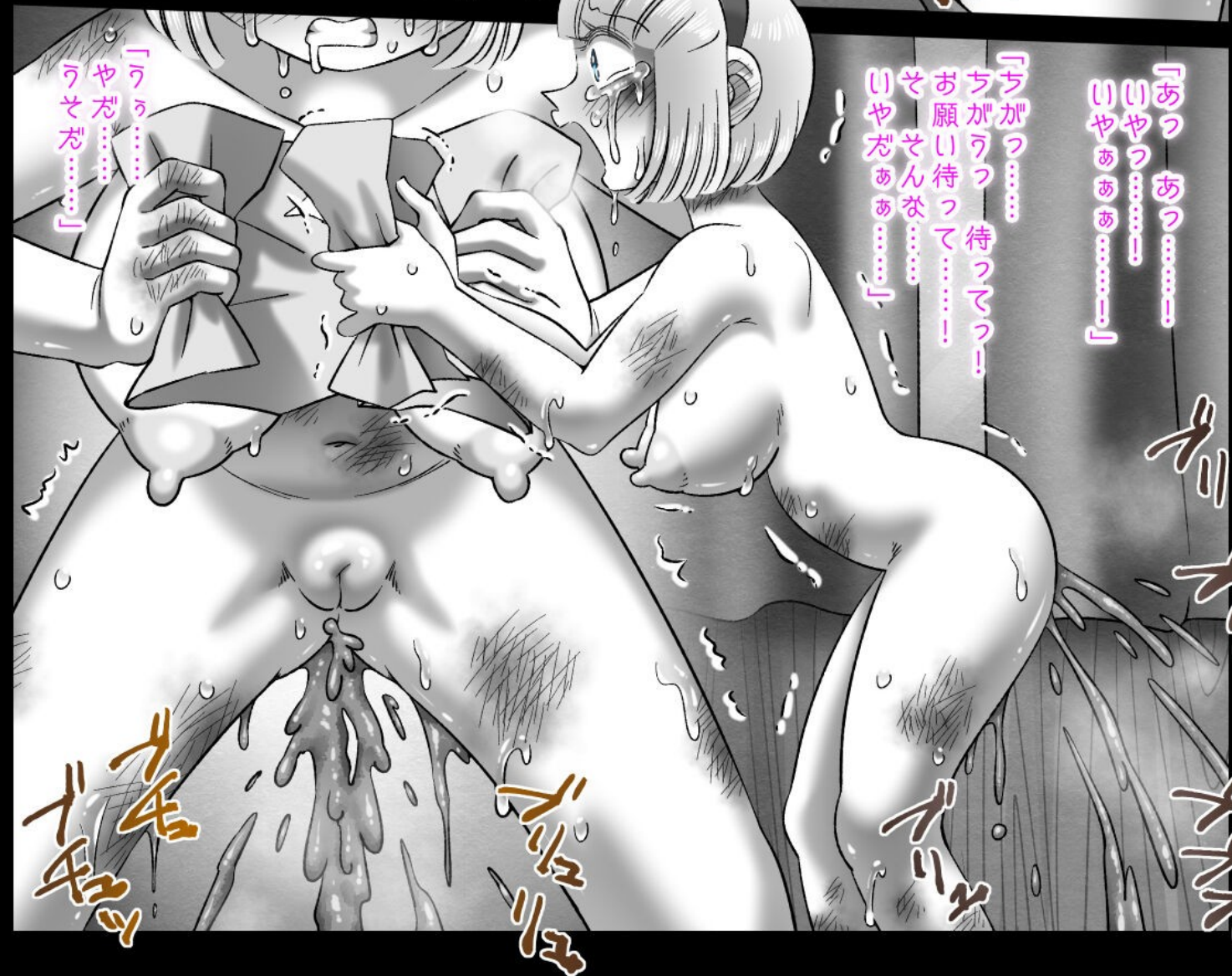
だめっ!!

「あっ!  
待って……!!」

ブリブリ

ブリブリ

ブリブリ



「うう……  
やだ……  
うさだ……」

「あっ あっ……  
いやあ……  
いやああ……」

「ちがっ……  
ちがうっ 待ってっ!  
お願い待って……  
そんな……  
いやだああ……」

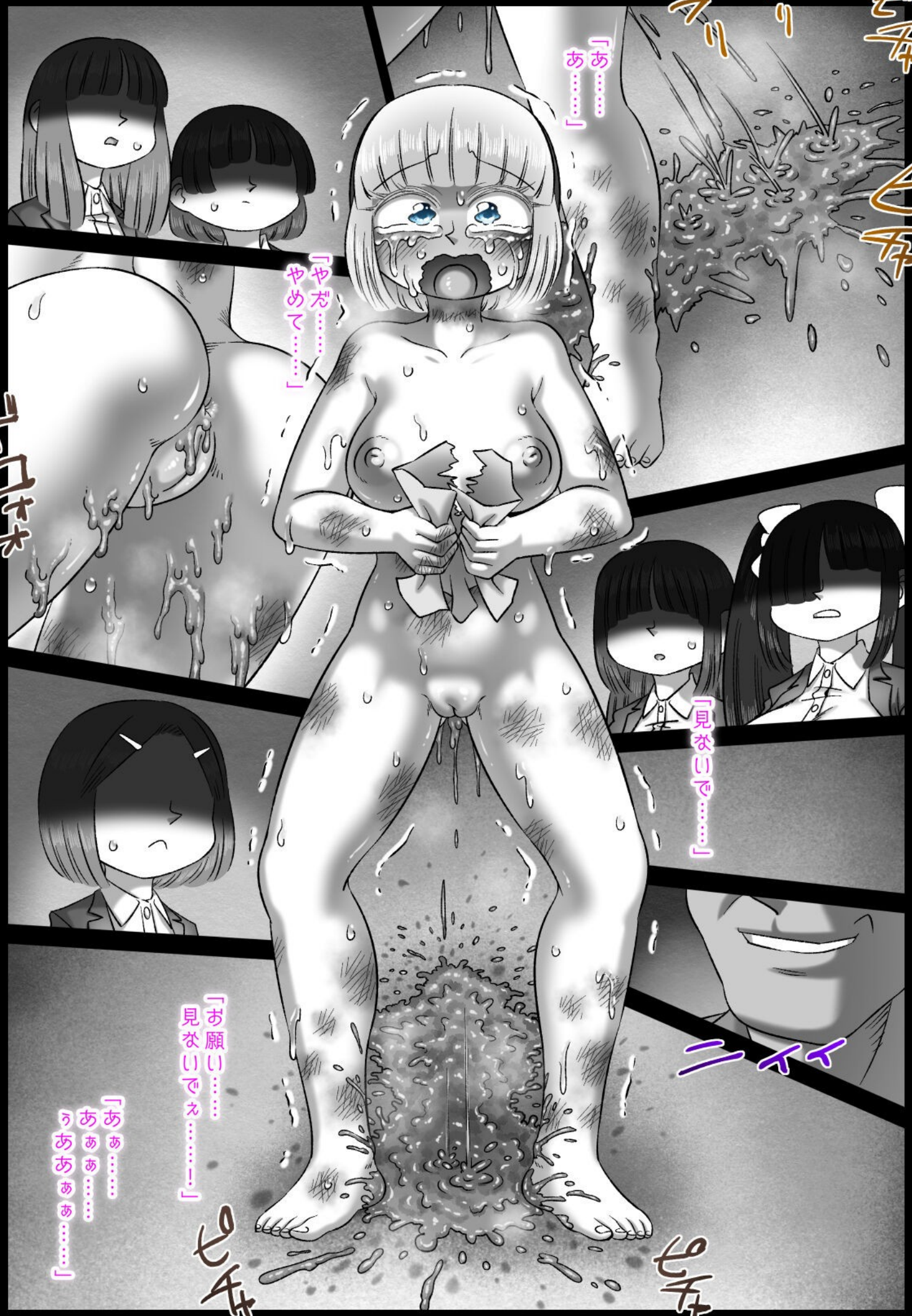
ブリブリ

ブリブリ

ブリブリ

ブリブリ

ブリブリ



「あ……」

「やめて……  
やめて……」

「見ないで……」

「お願い……  
見ないでえ……！」

「ああ……  
あああ……  
うあああ……」

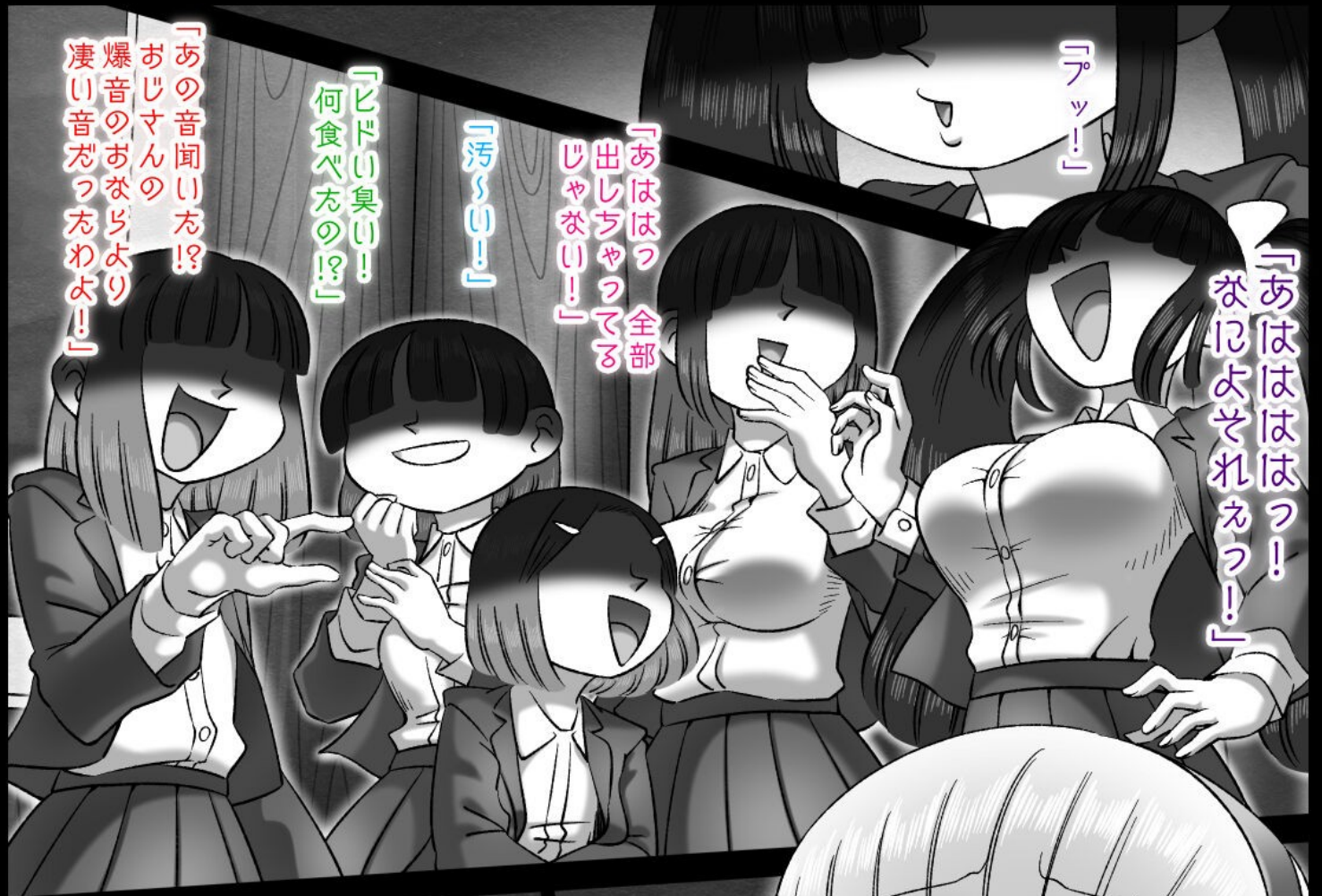
ニヤニヤ

どろどろ

どろどろ  
どろどろ

どろどろ

どろどろ



「プツッ！」

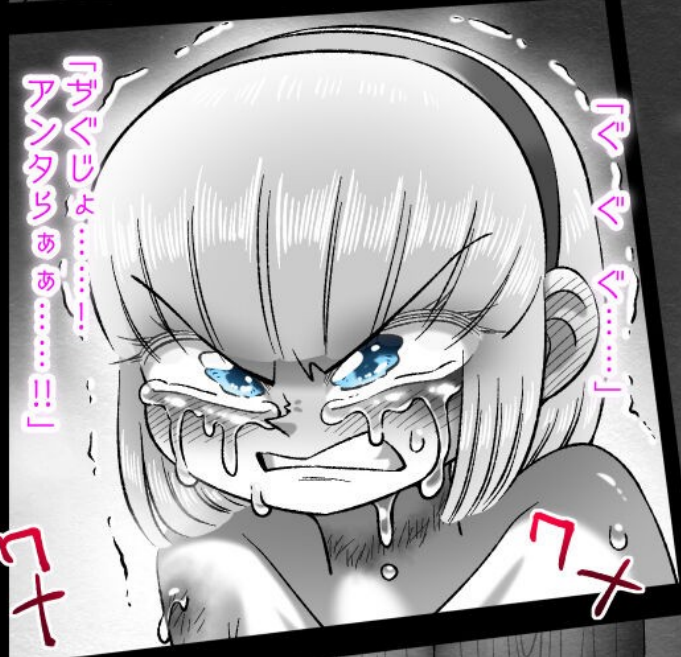
「あははははっ！  
なによそれえっ！」

「あははっ 全部  
出しちゃってる  
じゃない！」

「汚〜い！」

「ヒドい臭い！  
何食べたの!？」

「あの音聞いた!?  
おじさんの  
爆音のおなりより  
凄い音だっ方わよ！」

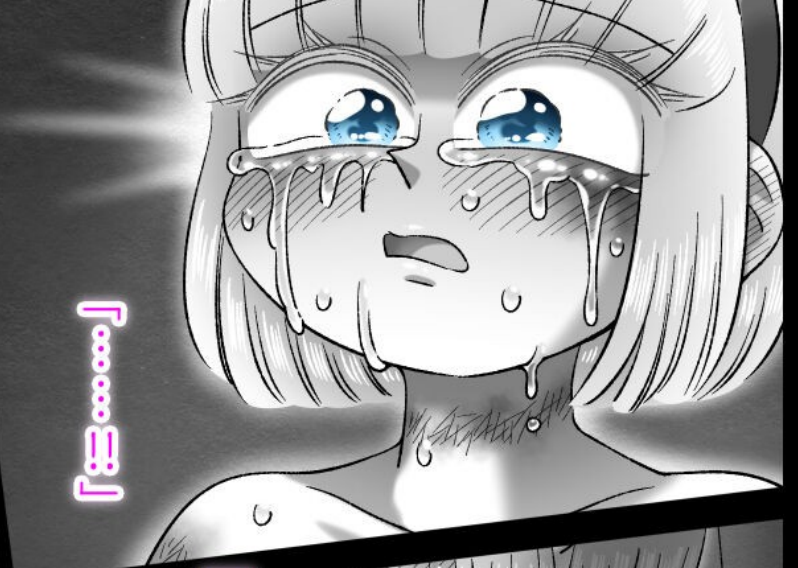


「サくじよ……!!  
アンタらああ……!!」

「……!!」

「+」

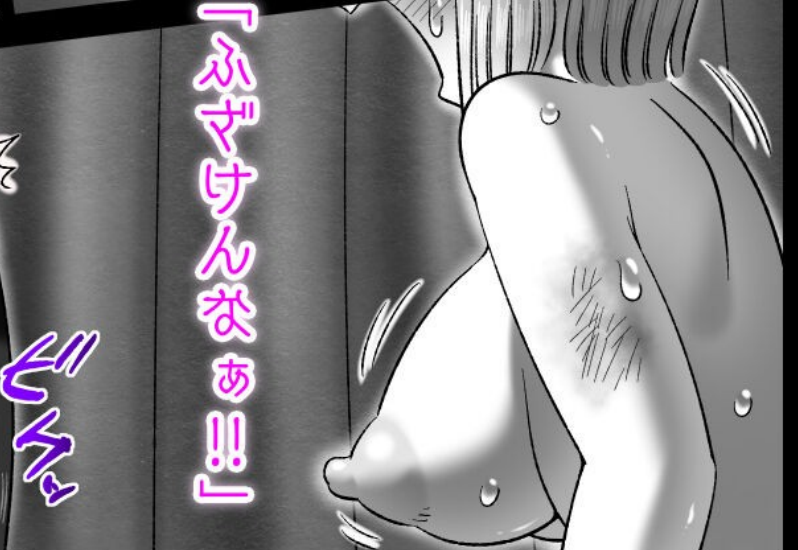
「+」



「……!!」



「どくろ」



「ふざけんなあ!!」

「ざっけんじゃねえ!!  
あんな浣腸され方り  
漏らすに決まってるだろ!!  
それを笑いやがってるエ!!」

「誰の為に  
謝ってやってると  
思ってるんだ!!」

「凡人風情が  
調子に乗るん  
じゃねえ!!」

「殺すぞ!!」

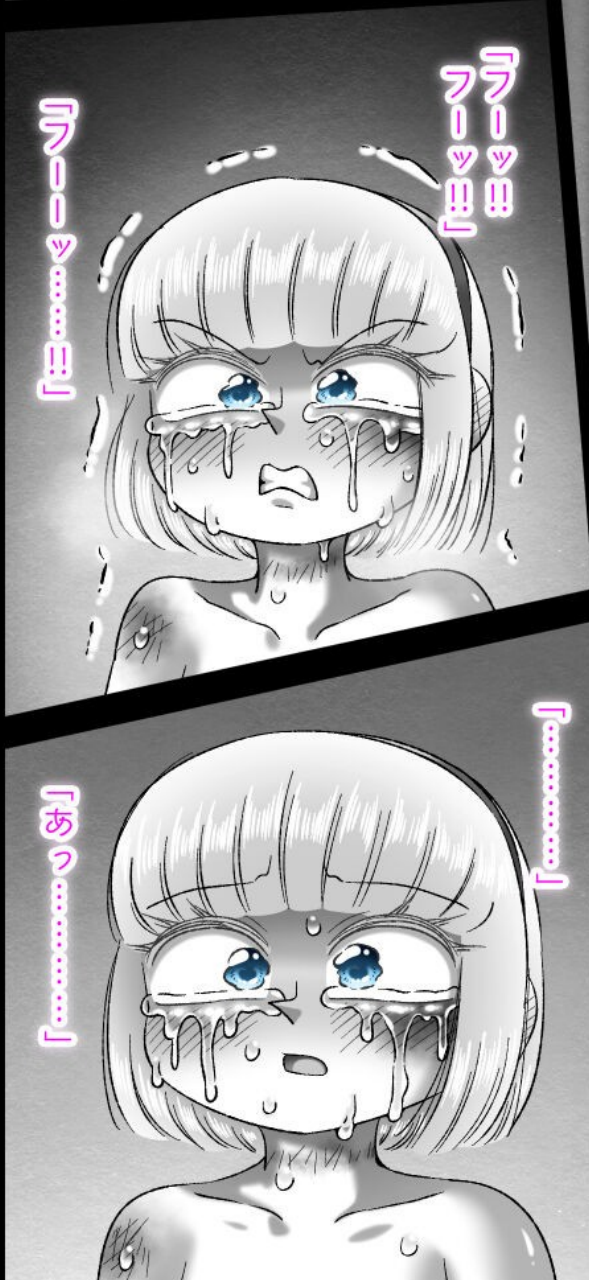


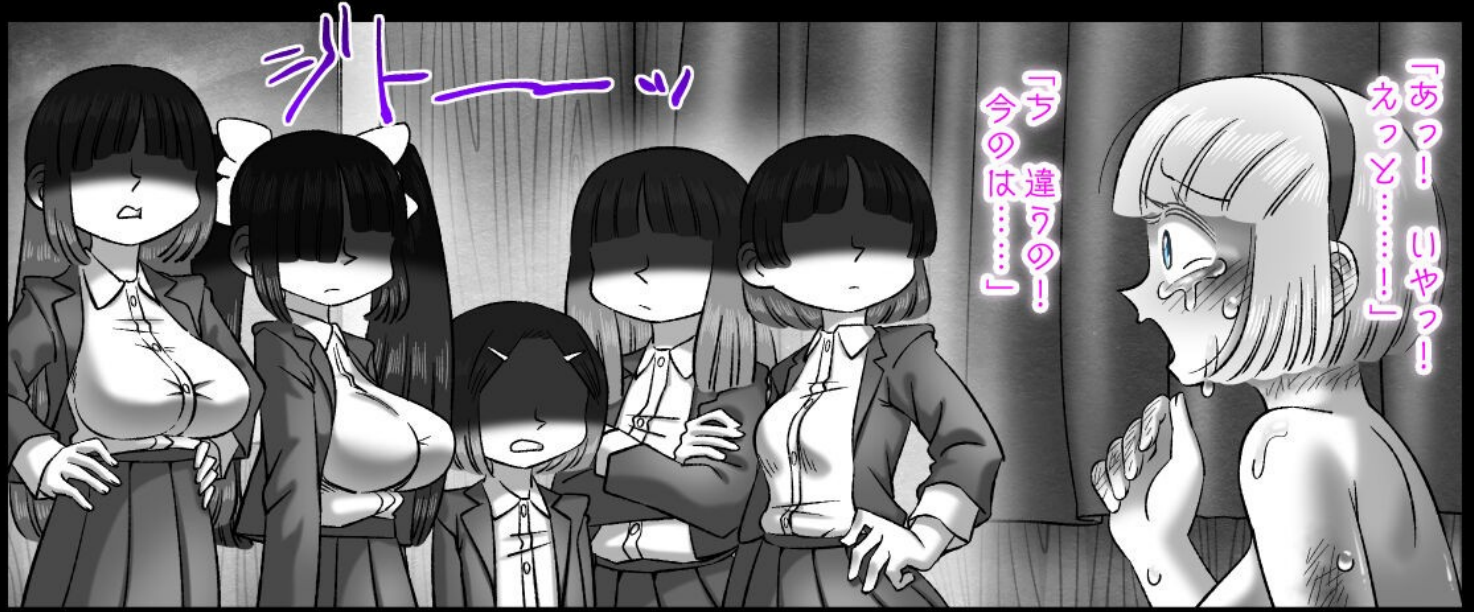
「フリー!!  
フリー!!」

「フリー……!!」

「……」

「あ……」





「あつ！ いやつ！  
えつと……！」

「ち 違うの！  
今は……！」

グッーッ



「ねえ アレ  
反省してるように  
見える？」

「なんにも  
変わってないね」

「前と一緒  
傲慢なまま」

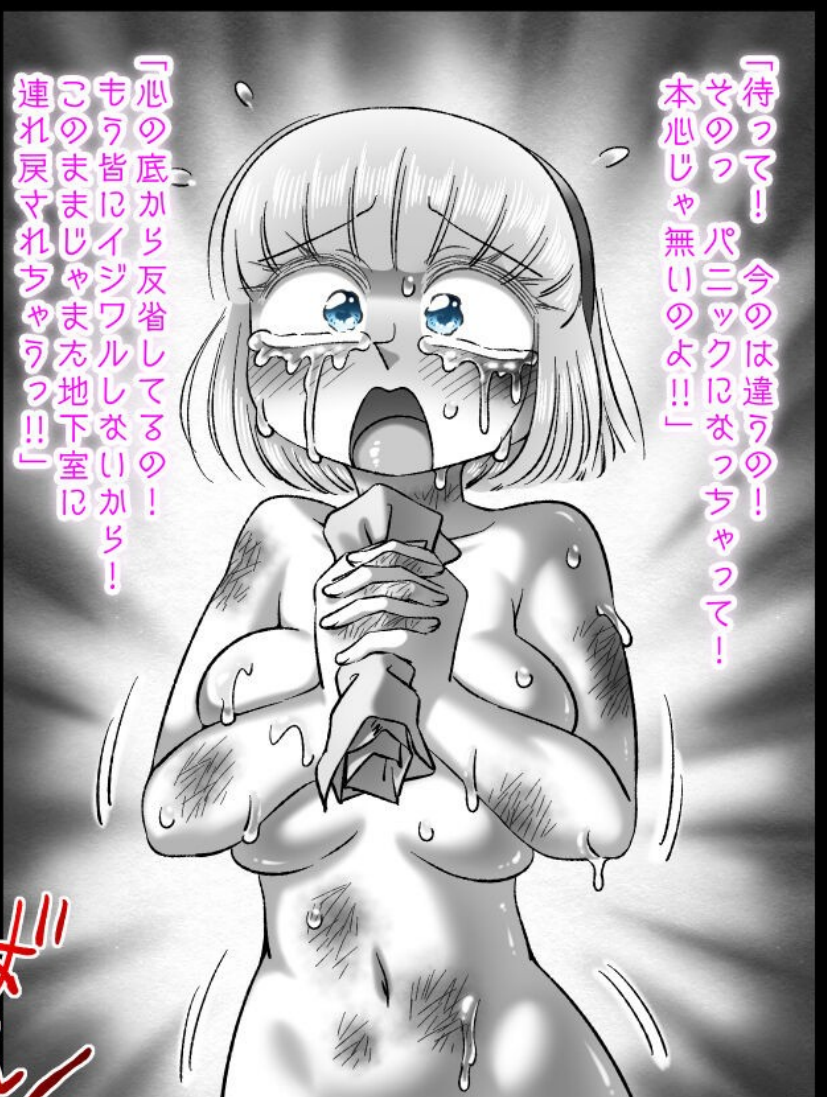
「誰が凡人  
ですって？」

「あーあ  
一瞬でも  
同情して  
損しち！」



「お願い……  
許して……！！  
レイプマレチャウ  
よお……！！」

「同じ女なら  
気持ちわかる  
でしょお……？」



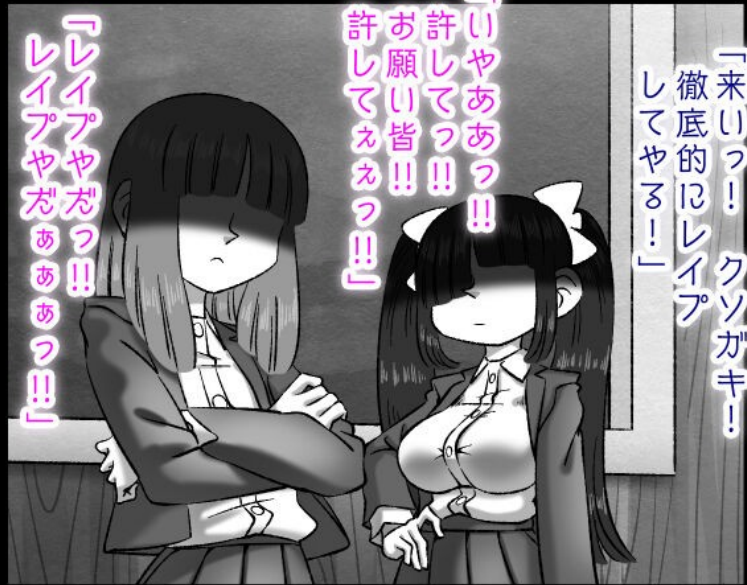
「待つて！ 今は違うの！  
そのつ パニックになっチャつて！  
本心じゃ無いのよ！！」

「心の底から反省してるの！  
もう皆にイジワルしないから！  
このままじゃま方地下室に  
連れ戻されちゃうつ！！」



「ま……っ……」

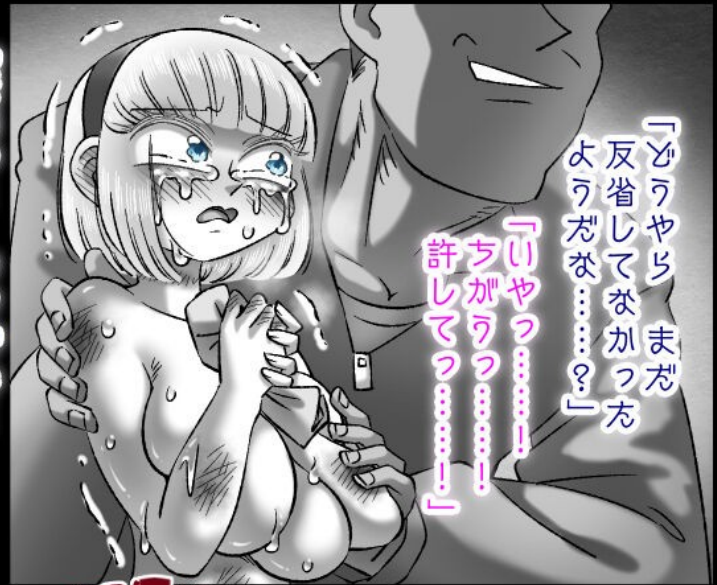
ほん！



「レイプやだっ!!」  
「レイプやだあああっ!!」

「いやああっ!!」  
「許してっ!!」  
「お願い皆!!」  
「許してええっ!!」

「来いっ! クソガキ!  
徹底的にレイプ  
してやる!」



「どうやら まだ  
反省してなかつた  
ようだな……?」

「いやっ……!!」  
「ちがうっ……!!」  
「許してっ……!!」



「ひっ! ひっ!  
やめてっ!!」

「乱暴しないでえええっ!!」



**ボクッ!!**

「オラアアアッ!!」

「ざひひひひひひっ!!」



「黙れ!!」  
「殺すぞ!!」

「ざやびっ!!」



**ズッ!!**

「いやっ いやらっ!  
なからしっ!  
いやらああっ!!」

「れいふっ やらっ!  
もおやらああっ!!」

「やらやらっ!  
やらあっ!  
あかひやんっ  
やらああっ!!」

はん! はん!  
はん! はん!  
はん! はん!

ジュル  
ジュル  
ジュル

「はひゅるるっ  
はひゅるるっ  
いやら……」

「もおやら……  
ゆるちて……  
レイプやら……  
ごめんなしゃい……」

あは  
あは  
あは

「オラ!!  
三発目の中出し  
全部飲み込め!!」

ゴボッ

ビク  
ビク

チュッ!

ゴロ

「ごめん  
済むがア!!」

「ひざいっ!!」





「オラ！  
レイアの時間だ！  
股開きやがれ！」

「ギゃああつ！  
やだつ！ やだああつ！  
レイアやだああつ！！」

「ペンギンしゃんつ！  
シャーリーの  
ペンギンしゃんの  
ぬいぐるみよこおつ！？」

「知りねえよ！！  
ギンギンのペニスなら  
ここにあるケドよあ！！」

「やだああつ！！  
レイアやだのおおつ！！」

ぎいっ

ブル

ブル

「クソガキ！！  
クソガキ！！  
犯マレろ  
クソガキ！！」

「んぐえつ！  
おげえつ！  
だじゅげえつ！！」

「ラッ……  
ラッ……」

「ふーっ  
ふーっ……  
あかちゃん  
でさちやうう……」

ムムム

「赤ちゃん出来るだ？  
もう出来てんだよ！！」

「ラしよつ！  
ラしよらつ！」

「よく見ろ！！  
テメエはもう  
妊娠してんだよ！！」

「いやつ！  
いやああつ！！」

△判定 △終了

ホホホ

ガハ

ガハ

ゼクン!

「金髪美少女生オナホは  
今日も気持ち良いゼエ!」

「ラッ……  
ラッ……」

「もっとな色っぽいで  
鳴けねえのがコラッ!!」

「んざいっ!!」

はぁん!!

はぁん!!  
はぁん!!  
はぁん!!

「はっ  
はっ……」

たっん!!

はぁん!!

「だいが腹も  
膨れて来たなァ!」

「赤ん坊に挨拶だ!  
腰を振れ! 腰を!」

「はぁっ  
はぁっ  
はぁっ  
はぁっ……!」

はぁん!!  
はぁん!!  
はぁん!!  
はぁん!!

はぁん!!  
はぁん!!  
はぁん!!  
はぁん!!





「んおっ……!!」

「んおおおっ!!」

「ふー 出た出た  
スッキリしちせ  
今日もありがとよ  
シャ〜リ〜!」

「ら……  
びしょ……」

「びしょ」

「びしょ」

「ぽん」

「ドロ」

「最近はお行儀の良い  
ガキが多くて退屈だぜ  
そのクセ発育はしつかり  
してやがるから  
ムラムラして仕方がねえ」

「皆 お前みちいな  
問題児ばかりなら  
容赦なく地下室送りに  
出来て楽しめるんだがな」

「ま もうしばらく  
お前には頑張つて  
もらうからよオ!」

「よろしく頼むぜ  
シャ〜リ〜!」



「ねえ 聞いた?  
シャ〜リ〜が遂に  
破水したんだって!」

「それつてもうすぐ  
産まれるって事?  
じゃあ見に行こうよ!」

「行こうよ!  
赤ん坊の顔  
拝んでやろうよ!」

「あはは!  
どっちに似る  
のかしらね!」

「よかつた〜！  
間に合っ ちみちい」

「うわ〜！  
ほんがすごい  
生臭いね〜  
羊水の臭い？」

「うっ うっ……  
うぐっ……  
産まれる……  
産まれるう……」

「苦しいよ……  
だ だれか……  
助けてえ……」

ぴゅっ

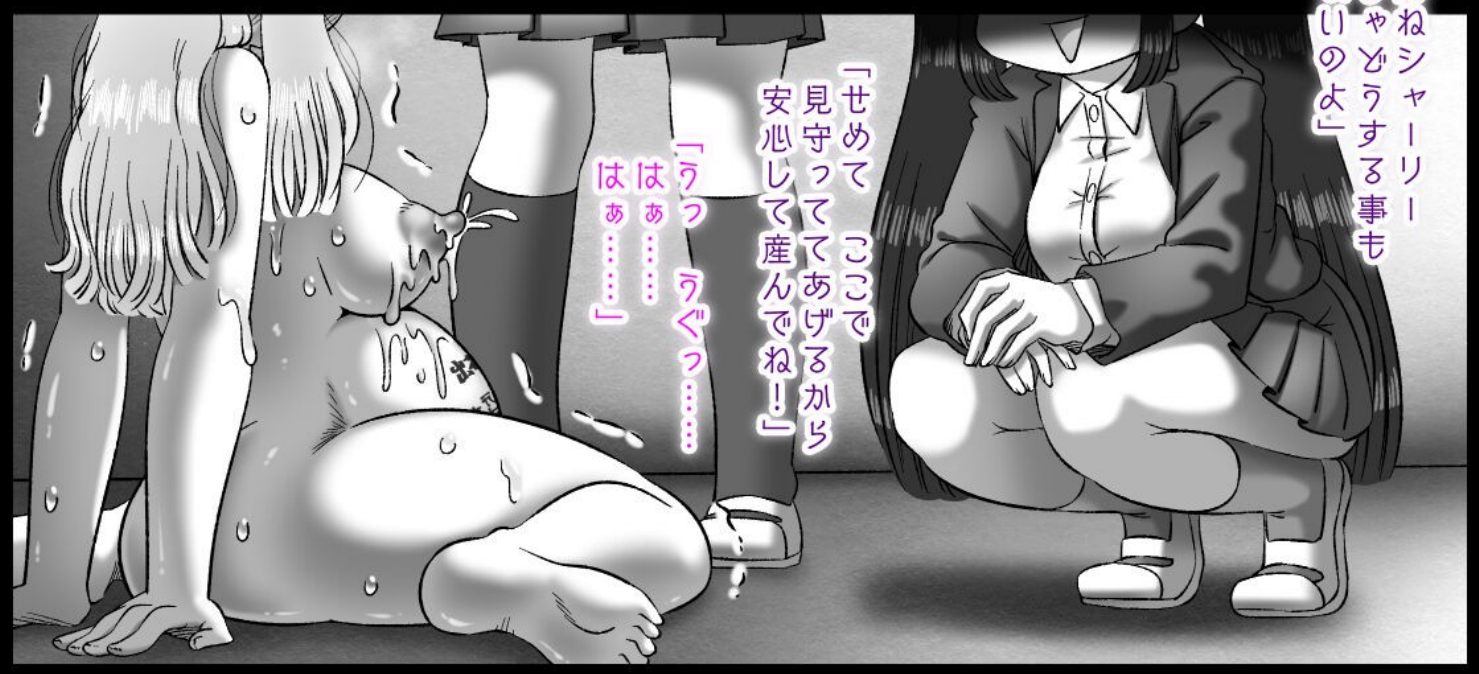
ぴゅっ

日産予定  
2/10  
無精  
オナホ  
生精  
一産  
頑張れ！  
即受精  
オナホ  
性挿  
配合  
注意  
産む

「ごめんねシャーリー  
私達じゃどうする事も  
出来ないのよ」

「せめて、ここで  
見守ってあげるから  
安心して産んでね！」

「うっ うぐっ……  
はあ……  
はあ……」





「うざやあああつ!!」

「出る出る出る出る!!」

「おっ  
ほっ  
おあつ  
ほっ」

「ほひゅっ  
はひゅっ  
はひゅっ  
ほひゅっ」

びるびる

びしゃびしゃ

びしゃびしゃ

びしゃびしゃ

びるびる

びるびる

びるびる

びるびる

「どんどん  
出てくる!  
かなりすんなり  
じゃない!?」

「ケツでかいから  
その分 安産  
なんでしょ!」

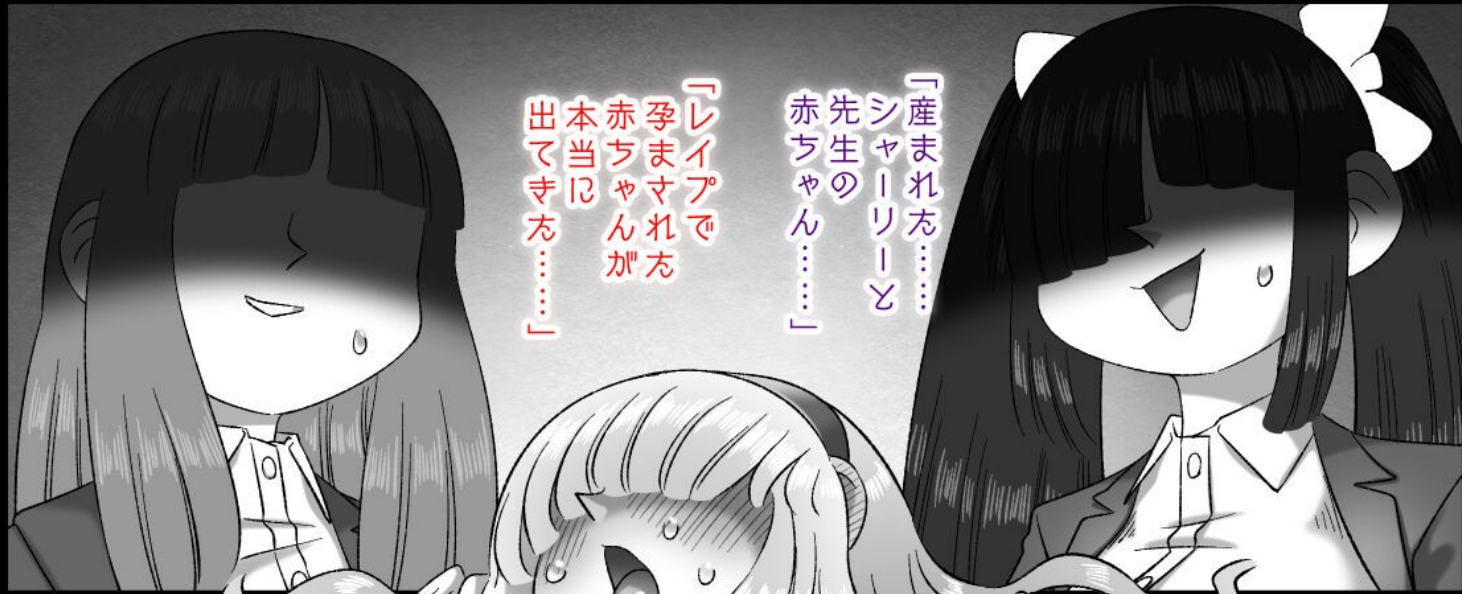
「うわ……」

「……」



「産まれた……  
シャリーと  
先生の  
赤ちゃん……」

「レイプで  
孕まされた  
赤ちゃんが  
本当に  
出てきた……」

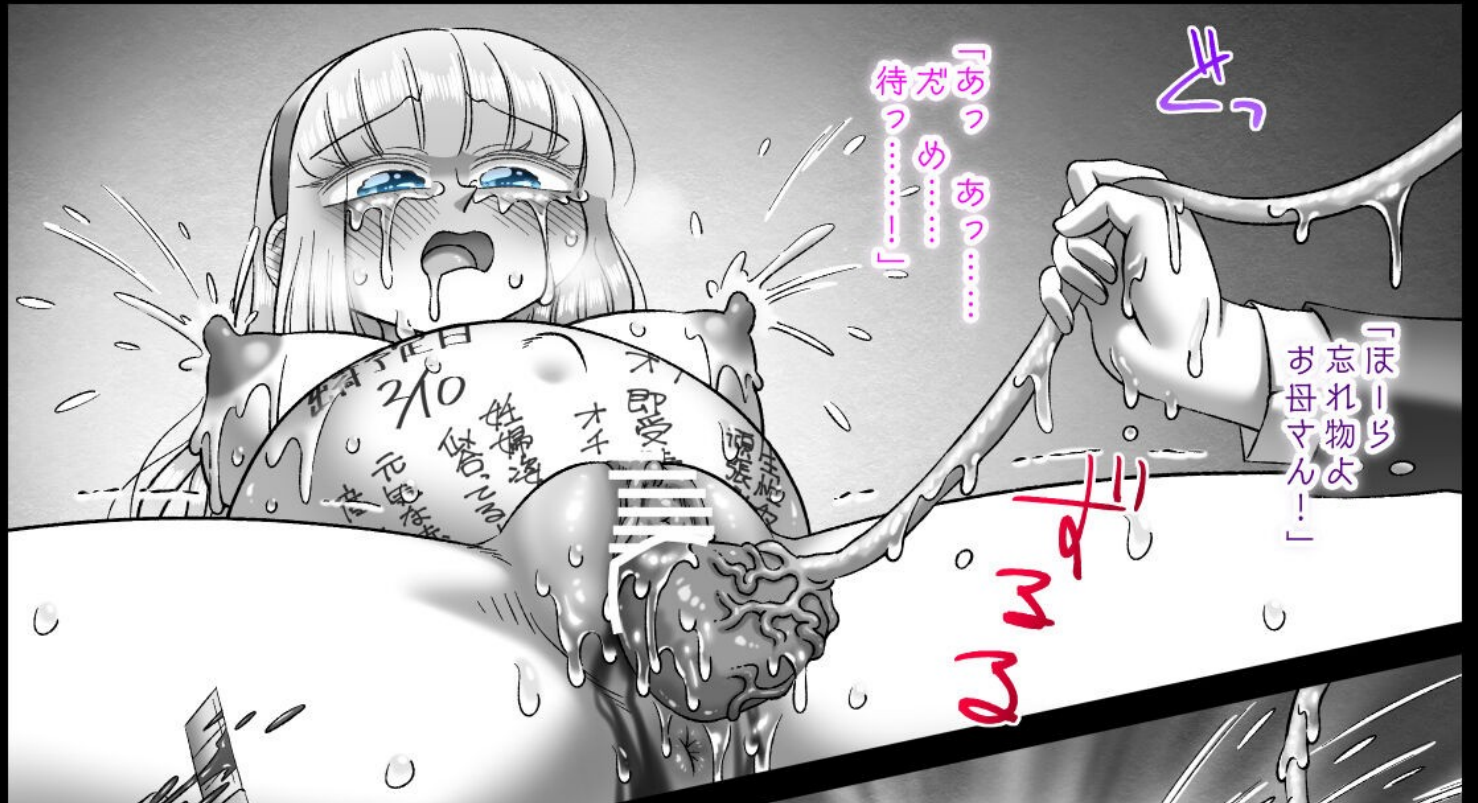


「うーま……  
れひゃ……  
あか……  
ひゃん……」

「は……  
は……  
は……  
は……」

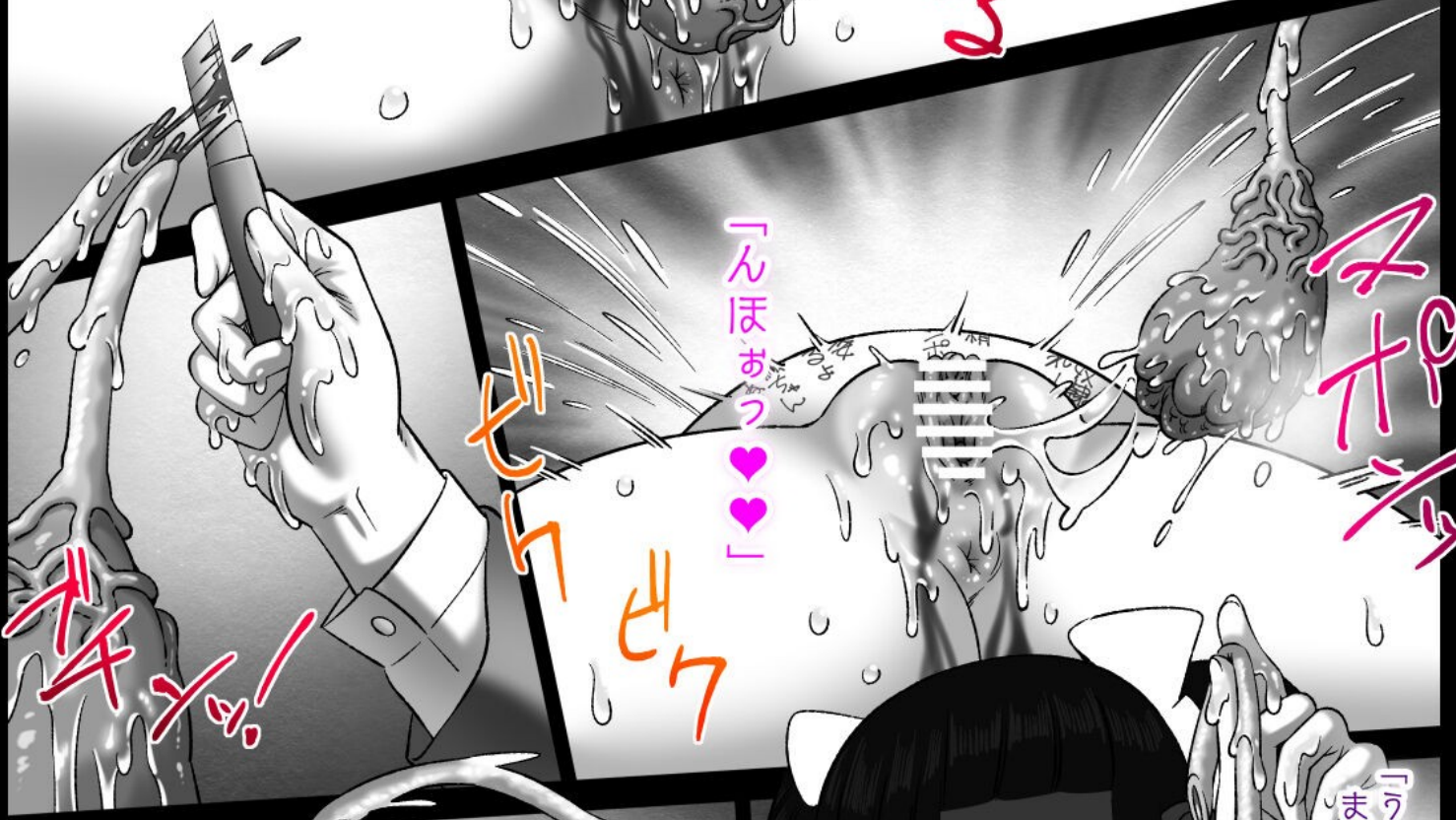
日産科  
1/10  
胎内胎児  
産卵  
即受精  
オナホ  
レイプ  
淫性交  
硬張丸  
オナホ  
性交渉  
配合  
子宮内胎児





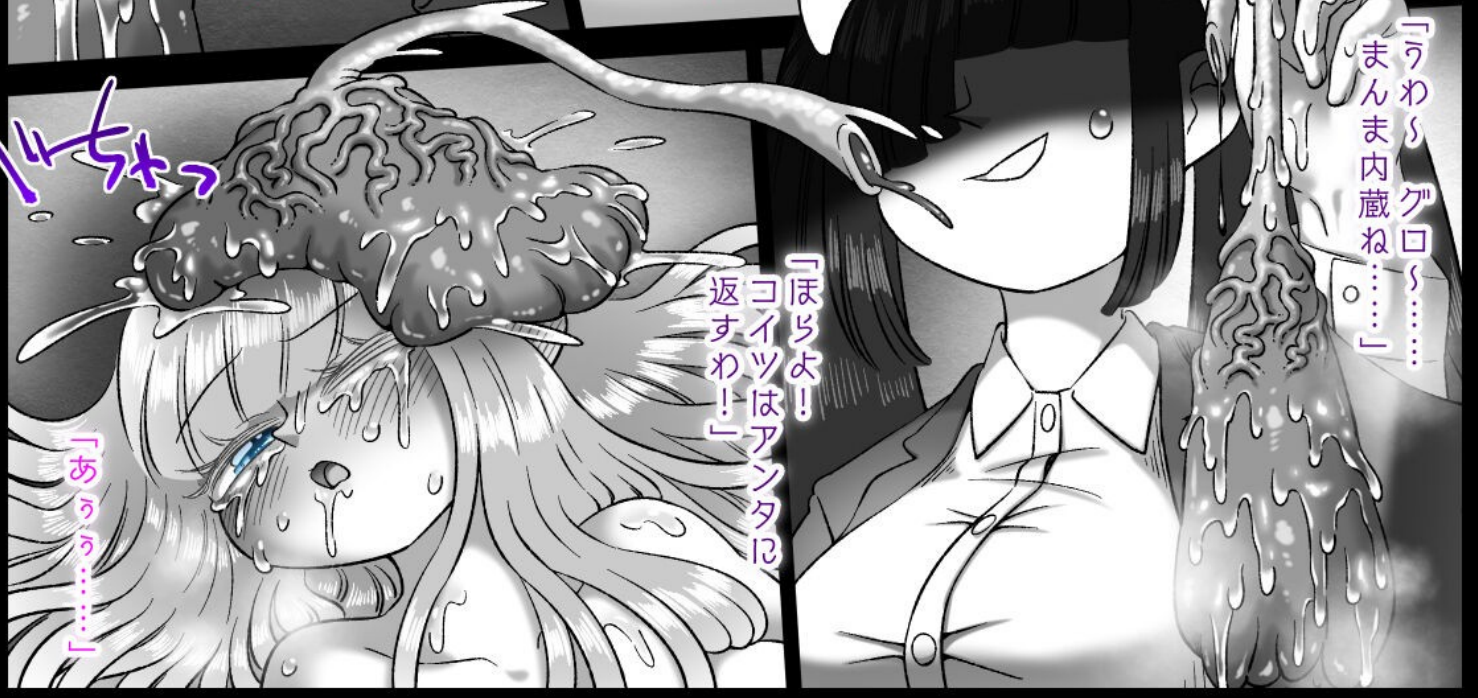
「あつ あつ...  
待つ...め...  
待つ...!」

「ほーろ  
忘れ物よ  
お母さん!」



「んほあつ♡♡」

ア  
ホ  
ン



「うわろグロ...  
まんま内蔵ね...」

「ほらよ!  
コイツはアタに  
返すわ!」

「あつ...」

「良い物見せて貰ったわ シャーリー」

「他の皆にも可愛い赤ちゃんを見せびらかせてあげなきゃね」

「アンタはそこでゆっくり休んでなまいな」

「ま……待って……赤ちゃん……アタシの赤ちゃん……」

「連れてかないで……アタシの赤ちゃんなのよ……」

おまね

「まさかアンタ育てるつもり？ ダメダメ！」

「アンタみぢいなクズが育てろ性格が歪むわ！」

「うそ……いや……待って……」

「この子は皆で優しい子に育ててあげる」

「お願い……赤ちゃんを連れてかないでえ……」

「そんなに赤ちゃんが欲しいならまろ先生に孕ませてもらっただろ？」

「じゃあね シャーリー 元気でレイプマレ続けてね」

終



# 碧い高慢と悲鳴 終

著者 切傷甲  
販売開始 2024年2月



## ■ブログ

<https://ci-en.dlsite.com/creator/4699>

## ■SNS

<https://twitter.com/kirikizu1>

## ■ご意見・ご感想など

[https://odaibako.net/u/kirikizukoh\\_post](https://odaibako.net/u/kirikizukoh_post)



琥珀  
高慢と悲鳴

作 切傷甲

「え？ もうお金  
払えない？」

「あっそ！  
じゃあ 明日から  
アンタもイジメの  
対象だからね！」

「うわあ！  
ビドリの  
点数！」  
「アタシがうた  
恥ずかしく  
生きていけ  
ない！」

「頭悪い人って  
羞恥心も無いの？」

「聞いたわよ  
アンタの両親  
略奪婚らしい  
じゃない？」

「人の物を欲しが  
る卑しい血が流  
れているのね  
おこわ！」

「そんな足の  
短マでよく  
アイドルなんて  
出来るわねえ」

「プッ！  
チッマ！」

「やだやだ……  
レベルの低い  
奴らばっか！」

「もう少し  
アタシを見習って  
欲しいわ！」



「お前ちや  
どうしたんだ？」

「先生！  
私達も  
耐えられませんか！」

「シャーリーの  
ワガママに皆  
苦しんでるんです！」

「もうこんな  
学校生活  
耐えられない！」

「なるほど……  
さいつは大変そうだが  
先生がなんとか  
してやろう……  
ククク……！」

「おい  
シャーロット！  
お前ちよつと  
やりすぎだぞ！」

準備室

「もつと皆と  
仲良くしよう  
と思わないのか!？」

「はあ……？」

「聞いたぞ  
お前が友達に  
いやがらせばかり  
してらつてな」

「そんな事して  
心が傷ま  
ないのか？」

「……………」

「友達？ 誰が!?  
アイツらは動物よ!」

「下等な連中を  
畜生扱いして  
何が悪いって  
言うのよ!」

「何だこ!?」

「!!」

「成る程な……  
それがお前の理論か」

「自分より劣った  
人間は畜生扱いして  
良いんだな?」

「なっ ちよっ……!」

「は 離しなさいよ  
ゴミクズ!!」

「そ せうよ!  
クズはクズ扱い  
マれるべきなのよ!  
アンタも一緒よ!」

「うるせえんだよ!!」

「!？」

「きゃああああっ!!」

キリッ!

「オラァ!!  
クソガキがあ!!」

「うざやつ!!」

バチ

「お 殴つた……!?  
このアタシを……!?」  
「ゆ 許さない!!  
お父様に  
言い付けて  
やるんだから!!」  
「クス風情が  
このアタシに手を  
上げた事を死ぬ程  
後悔してもしらうわ!!」

「何を偉そうに  
ほざいてやがんだ  
パイオツ丸出しにして  
言う台詞じゃねえだろが!!」

「えっ ばい……?  
あ ああつ!!」

「きゃあああつ!!  
見るなああつ!!」

はかん

「なんだ  
自分から見せてたんじゃ  
無かつたのが ククク」



「いやあああつ!!  
やめてえええつ!!」

「はくしい!  
美少女おまんこ  
丸出し〜!」

びっ!

「ま まマがアタシを  
レイプするつもり!?」

「冗談じゃ無いわ!!  
アンタみちいなカスに  
犯されて充まるもんですか!!」

「あつ!」

ずるん

「ちよつと!  
見てないで  
助けてよ!!」

「この  
変態教師を  
何とかして!!」

「うひよお!  
色白美少女の  
生尻充まんねえ〜」

「いやあああつ!  
そんな汚いモノ  
擦り付けないで!!  
誰か 誰かあ!!」

「誰も助けに来ねえよ!  
お前みちいな性悪女を  
救って何の得がある?」

「せ……  
せんまつ!!」

スリ スリ





「殺してやる……！  
本当に殺す……！」

「ひっ!! いやっ!!  
殺さないでっ!!  
お願いっ!!」

「マジでこの  
クソ弱っちい  
クソガキ  
ぶっ殺しちく  
なって来ちぜ!!」

「殺しながら犯す!!  
犯しながら殺す!!」

「ザヤっ!!  
うざひいっ!!」

「お前が死んでも  
誰も悲しまねえ!!  
なら殺して良いよなあ!？」

「ぐっ ぐるじっ……!!  
やめっ……!!  
ごろまないでえ……!!」

「ぐえっ……ぐえっ……  
ゆる……じでええ……」

はん!!

はん!!  
はん!!  
はん!!  
はん!!

どは!!

はん!!  
はん!!  
はん!!

ズビュルルルル!!

「殺されながら  
孕みやがれ!!  
シャーロットオオオ!!」

「うぐげえええええっ!!」

「げっ……! げえっ……!  
うげ……! うげええ……!」

ゴクゴク

ゴクゴク

「うおおっ! 出る!  
ザーメン出まくるぜえ!」

「女王様気取るだけあつて  
最高の肉壺だぜえ……!」

「処女マンコの癖に  
チンポにネットリ絡みついて  
ちっとも離しやしねえ!」

ズビュルルル!!

「中出し止まらねえ！  
こんだけ出りゃ  
確実に孕んだな！」

「かはっ……！  
げっ……げえ……！」

「初セックスがレイプで  
おまけに孕まされるって  
どんな気分だ？ え？」

ギリ

ギリ

ギリ

ビュッ  
ビュッ

ビュッ

ビュッ

スルリ

「おつとすまねえ  
力入れ過ぎちゃった」

「まだ殺すワケには  
いかねえよな？」

「げほっ……！  
げほっ……！」

「別にここで  
殺しちゃっても  
構わねえんだが  
後片付けが  
面倒だからな」

「それに もっと  
楽しませて  
もらいたいよあ」

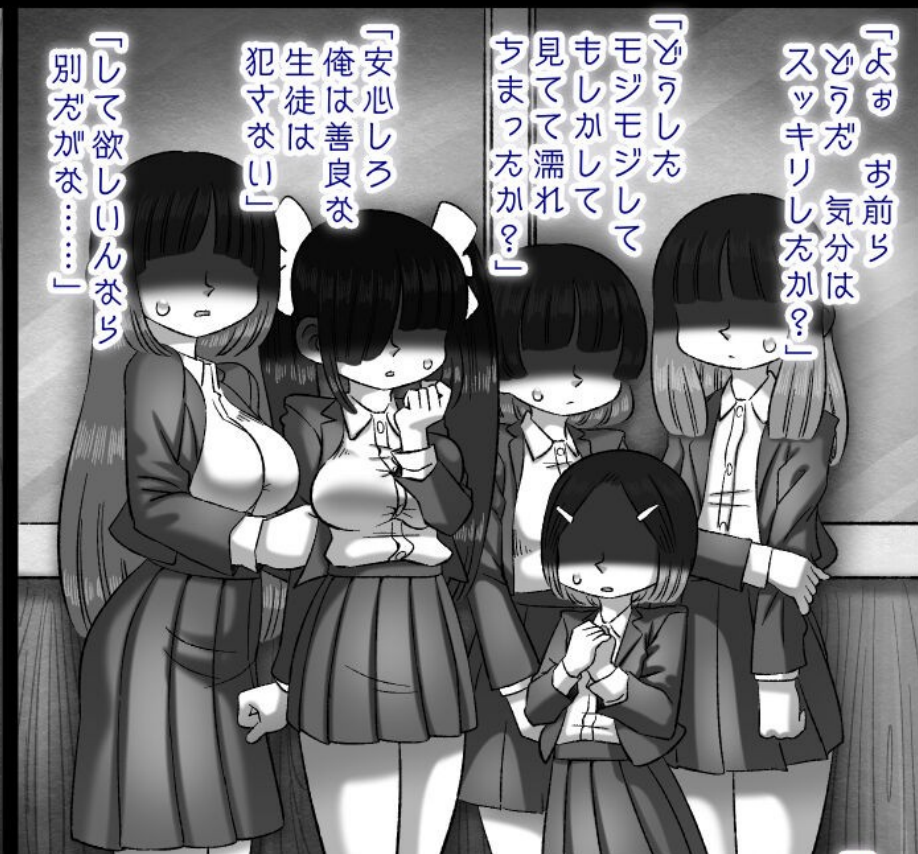
「ちっぷりと  
犯してやるぜ  
シャーリーちゃん！」

グッ  
グッ



「お前らは善良で従順な生徒だよな？」

「俺の言ってる事理解出来るんだよな？」



「おお お前らどうだ 気分はスッキリしたか？」

「どうしてモジモジしてもしかして見てて濡れちゃったか？」

「安心しろ俺は善良な生徒は犯さない」

「して欲しいんなら別だがな……」



「ククク……」

「コイツも早く善良で従順な生徒にしてやらないとな」

「それで良いこれからしばらくシャローットは俺が預かる」

「……は はい！この事は誰にも言いません……」



「なんだまだ寝てるのか？ぐうたんな女だ……」



ガキーン

「シャローット……」

「おっよー！」

「ひいいいっ！」

「あ あれっ!?  
開かない!?  
何で!？」

「今アイツが  
開けたのに!  
どうしてえ!？」

ぞぞぞぞ!!

ぞぞぞぞ

「バーカ!  
ソイツは引き戸  
なんだよ!」

「ノブをガチャガチャ  
回して  
開かねえんだよ」

「!」

「うんしょっ!  
うんしょっ!」

ぞ

ぞ

「ギャハハハ!  
信じてるよ  
コイツ!」

「引き戸をワケ  
ねーだろ!  
見て分からねえのが  
バカがよお!」

「うっ……!  
ぐうう……!」

ア

「そんな簡単にこの地下室から逃がすと思ってるのか？」

「いや……」

「お前にはちっぷりとおシオキしてやる」

「来ないで……」

「人を蔑む権利なんて自分には無いって事をその身体で理解させてやる」

「ううう……」

「やだ……やだあ……」

ズズズズ

ブル

「おっ おねっ お願いつ……！ 犯さないで……！」

ガク

ガク

「あ 謝るっ！ 謝るからっ！ ぞかられっ レイプしないでっ！」

「安心しろ……俺はレイプなんかしない……」

「えっ……？」

「俺はな……」

「お前をぶん殴りに来ちんだよ」

「……あ……」

「あ……いや……いやあ……」

「よし  
じゃあまずは  
渾身の一撃を  
腹にお見舞いするか」

「や やだっ!  
やめてっ……!」

「アタシっ 酷い事しただけ  
暴力だけは振るって無い!」

「いやっ! 来ないでっ!  
暴力は止めてっ!  
お願いだからっ!」

「うげっ!  
ぐげっ!  
おげえええっ!!」

「言い訳すんじやねえ  
クソがキイイ!!」

「大人しく殴られろ  
雑魚メスがああ!!」

**ズッ!**  
**ズッ!**  
**ズッ!!**



「泣けば許されると  
思ってたんのがコラ！」

「ぎゃふっ!! うぎゃひっ!!  
やめっ やめでええっ!!」

「なら思う存分鳴け!  
ガマガエルみてえにだよ!!」

「げっ げえっ  
げばううっ!!」

ゴス!  
ゴス!  
ゴッ!

「オラッ!  
好きなら  
吐いて来いや!!」

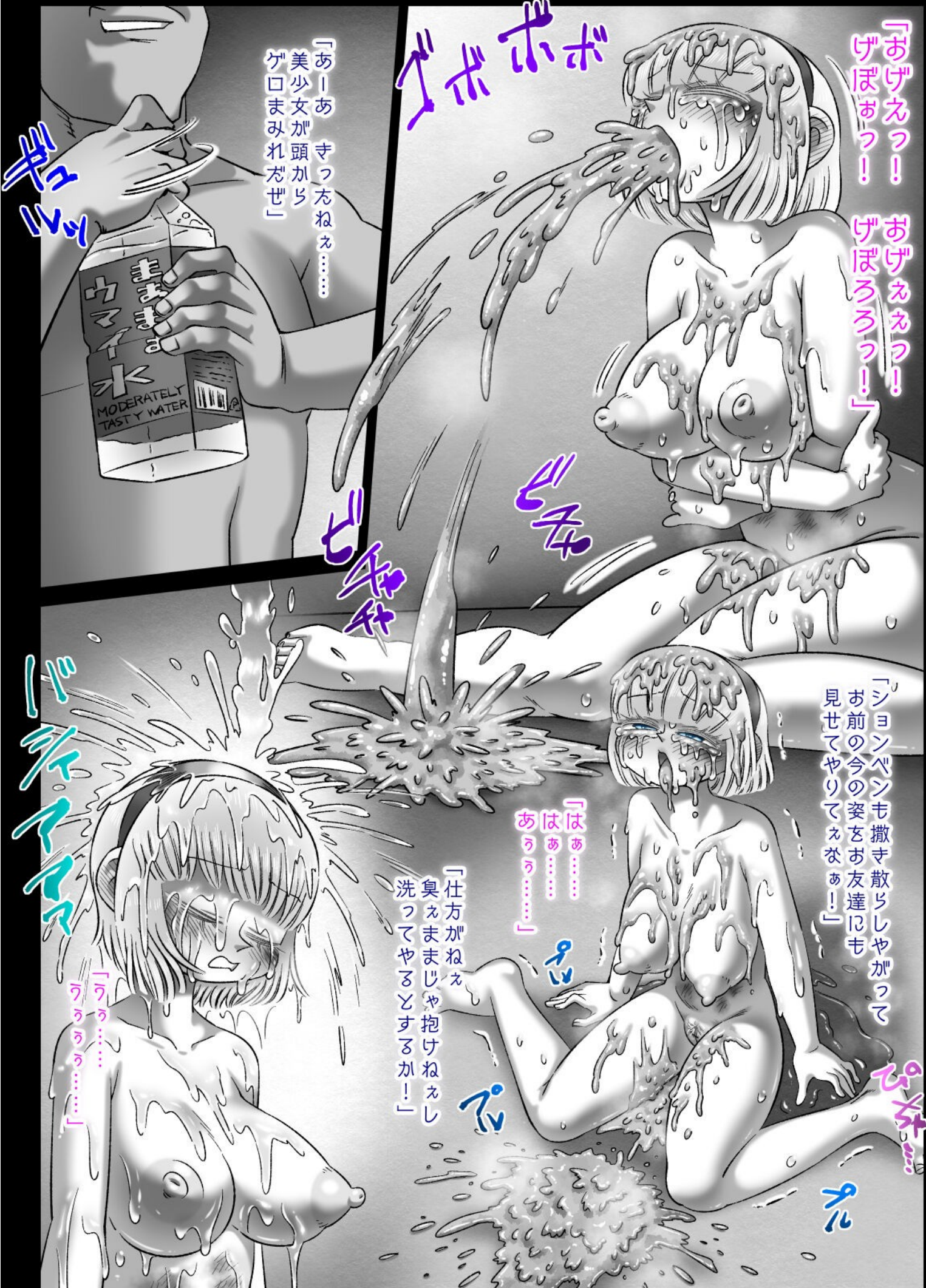
「げぼっ!!」

「げえええっ!  
おげえええっ!!」

「げぼぼぼっ!  
げろろろっ!!」

グッ!

びゅあああ



「おげえっ!!  
げぼおっ!!  
おげええっ!!  
げぼろろっ!!」

ゴボボボ

どろ

びちゃ

「シヨンペンも撒き散らしやがって  
お前の今の姿をお友達にも  
見せてやりてえなあ!」

「はあ……  
はあ……  
あうう……」

「仕方がねえ  
臭えままじや抱けねえし  
洗ってやるとするか!」

「あーあ きつ方ねえ……  
美少女が頭から  
ゲロまみれだぜ」

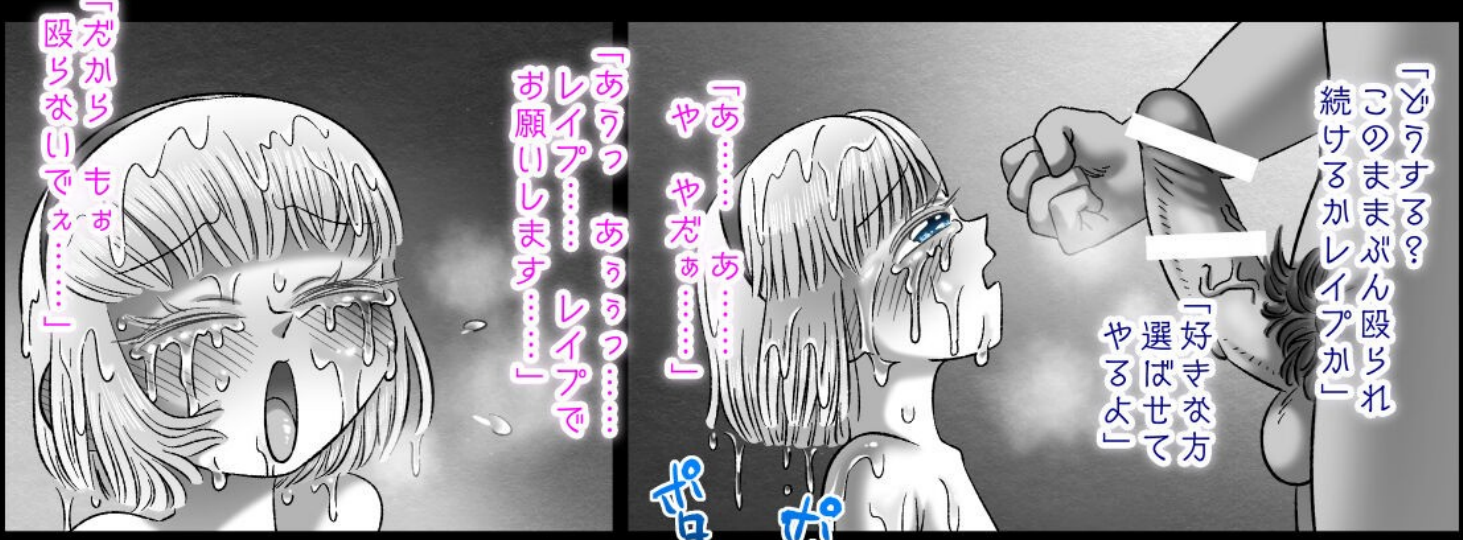
ギョ  
ルッ

バ  
グ  
マ  
マ  
マ

「うう……  
うううう……」

び  
ん

ブル



「どうする？  
このままぶん殴られ  
続けるかレイプか」

「好きなら  
選ばせて  
やるよ」

「あ……あ……  
やだあ……」

「あうっ あううっ……  
レイプ……レイプで  
お願いします……」

「だから  
もも  
殴らないで……」

ぱん  
ぱん



「よし じゃあレイプだ  
これはお前が選んだんだ  
お前が望んだ事なんだぜ？」

「自分から  
犯されたがるなんて  
とんでもねえオサセな  
女だな！」

「やだ……  
やだ……  
なんで……  
どうしてこんな事に  
なっちゃったの？」

ぐいっ

「このアタシが……  
こんな変態に……」



「日頃の行いのせいだろうが！  
この世は正義が勝つように  
出来てんだよ！」

「あう……  
あうう やだあ……  
入っちゃう……  
また犯されちゃうよ……」

ぐぐぐ

ヌク……



「ああっ やだっ いやっ!  
終わって! 早く終わってえっ!!」

「そんなに中出しが  
待ちきれねえのか?  
そんならちっぷりと  
注いでやるよ!!」

「オラッ! オラッ!  
孕めえええっ!!」

「いやあああああっ!!」

ばちゅん!!

せゅゅゅ!!

ばちゅん

ばちゅん

ばちゅん

ばちゅん

ばちゅん

せゅゅ!

「ああっ! 汚いっ!  
汚いっ!!」

「いやだあああっ!!」

「その汚えモンで  
テメエは妊娠  
するんだよオ!!」

びゅるる!!



「ああ……」

アホバ



ぐすっ  
ぐすっ……」

アホバ

「あうう……」

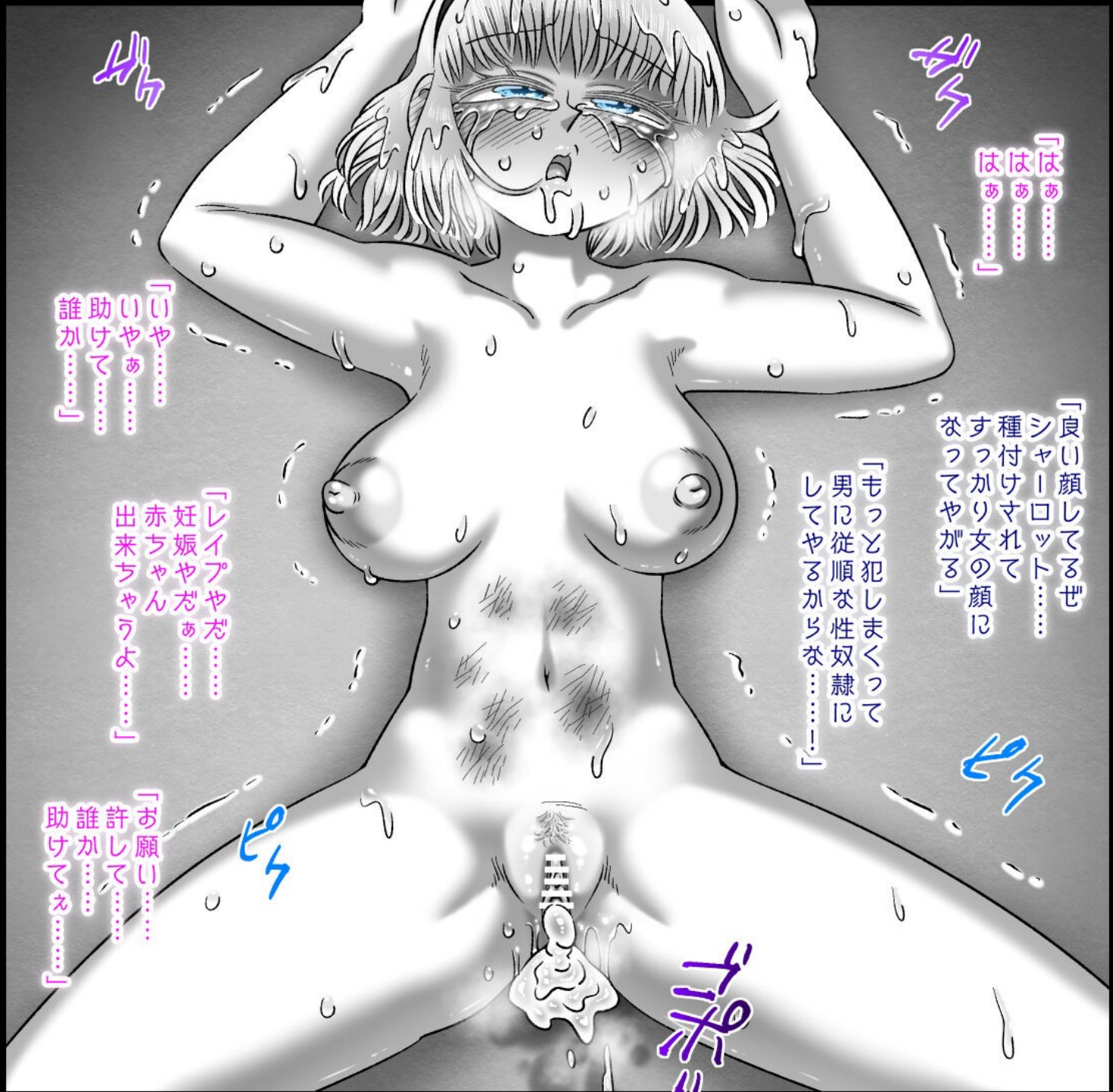


「フリーッ  
フリーッ」

「身体だけは  
本当に  
イイ女  
だぜ……」

ビクッ

ビクッ



ビクッ

ビクッ

「はあ……  
はあ……  
はあ……」

「良い顔してるぜ  
シャーロット……  
種付けマレで  
すっかり女の顔に  
なつてやがる」

「もつと犯しまくって  
男に従順な性奴隷に  
してやるからな……」

ビクッ

「いや……  
いやあ……  
助けて……  
誰か……」

「レイプやだ……  
妊娠やだあ……  
赤ちゃん  
出来ちゃうよ……」

「お願い……  
許して……  
誰か……  
助けてえ……」

ビクッ

アホバ

「シャーリーが  
消えてから  
二週間……」

「まだ彼女は  
先生に犯されて  
いるのかしら……」

「やっぱりアレは  
やりすぎ  
なんじゃ……」

「まさか先生が  
シャーリーを  
レイプする  
だなんて……」

「嫌な事はかり  
言われたけど  
そこまでする程  
じゃ無い……」

「いくら何でも  
可哀想……」

「あんなやり方  
間違ってるんだ」

「今からでも  
先生にやめて  
もらうべき？」

「大事になる前に  
止めないと……」

「平気！  
平気！」

「気にすんなって！」

「そうよ！  
ほつとけば  
良いのよ！」

「元はと言えばあの子が  
悪いんじゃない！  
自業自得よ！」

「そ……  
そうよね……」

「うん……」

「私達は  
悪く無い……」

「……だもよ  
友達はまだ  
お前を許して  
無いらしいぜ」

「……………」

「哀れだな……  
学校の秘密の地下室で  
犯され続けて……」

ズルル……

「必死に助けを求めて  
叫び続けろ結果が  
コレだなんて……」

……

「全く哀れで  
笑えて来るぜ」

ズル

ズル

ズルル

「グク……  
すっかり従順に  
なっ方なァ……」

……

ズル

ズル

ズル

ズル



「よし 出すぞっ!  
その生意気な面に  
ぶっかけませろ!」

びしょ濡り!  
びしょ濡り!

「あああ……」

ドロク……

「しっかり飲み込め  
今のお前には精液も  
立派な栄養だからな」

「……………」

びしょ濡り

ドロク

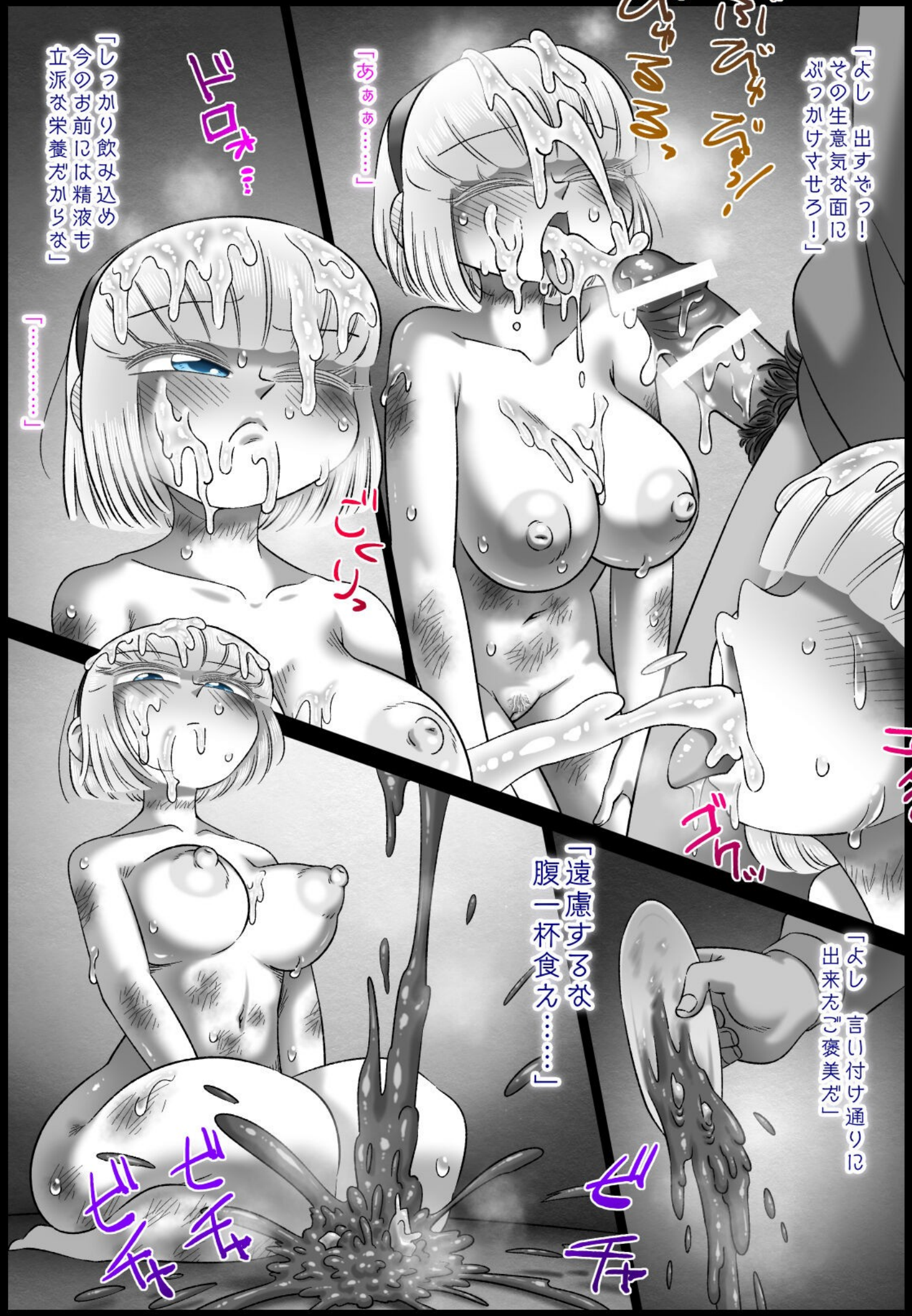
ゴク

「遠慮するな  
腹一杯食え……」

「よし 言い付け通りに  
出来たご褒美だ」

びしょ濡り

びしょ濡り



「卑しい私に  
お恵みくたまり  
ありがとうございます」

「全て残らず  
味わわせて  
頂きます……」

「クク……  
くっくっく……  
クヒヒヒ……」

「なんて無様な  
姿だ……」

「これがあの  
威張り散らしていち  
シャーロットとはねえ」

「ま 畜生以下の  
下劣なバカ女には  
お似合いの姿だよ」

ポチャ  
ポチャ

ポチャ

ベ  
ベ

ポン  
ポン

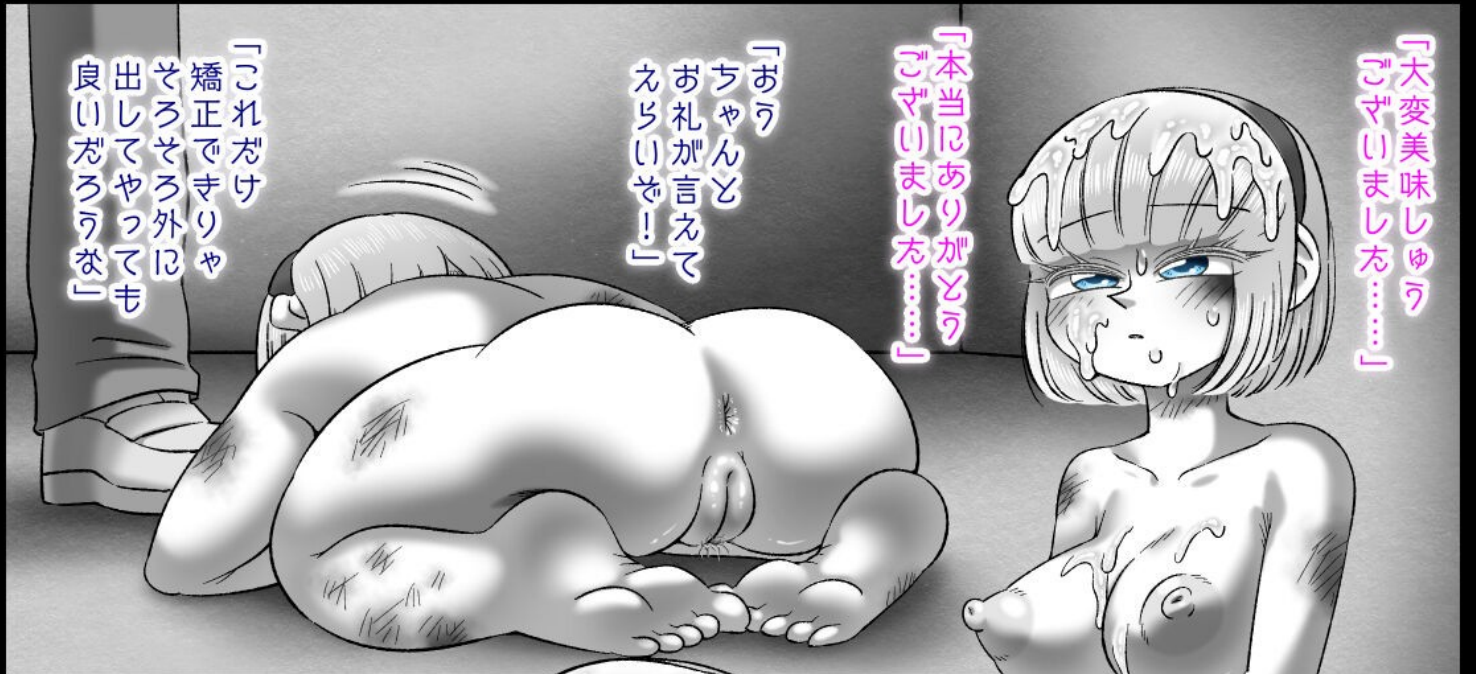
クチャ  
クチャ  
クチャ

「大変美味しゅう  
ございました……」

「本当にありがとら  
ございました……」

「おう  
ちゃんとお  
礼が言えて  
えらいぞ！」

「これだけ  
矯正できりゃ  
そろそろ外に  
出してやって  
良いだろうな」



「ゆ 許して  
くれるの!？」

「ああ だが……」

「最後の試験に  
合格できたら  
だがな……」



「……と言う  
ワケで……」

「シャーロットが  
ちゃんと反省してるが  
皆に判断してもらおう」

「反省文を  
書かせたから  
皆聞いて  
やってくれ」

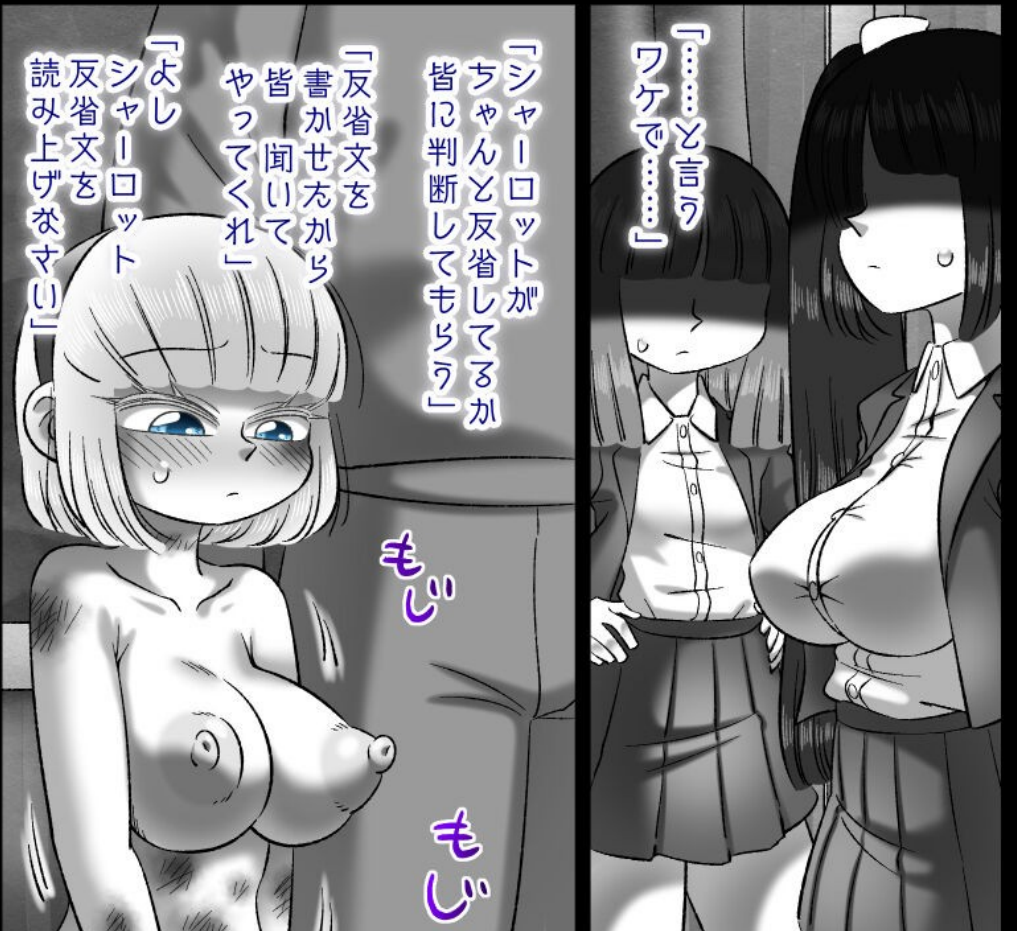
「よし  
シャーロット  
反省文を  
読み上げなさい」

もじ

もじ



「はい……」



ビクッ!

「あひっ!?!」

(アタシをここまで  
コケにしゃがんで!  
このまま外に出ろ!  
すぐママお父様に  
全て言い付けて  
全員破滅させてやる!)

(何が反省文だ  
クソ野郎……!!!)

(覚悟しろ  
下等生物  
共が……!!!)

ス

びるるるる

(な 何言ってるの  
コイツ……??  
意味わかんない!)

「本当に反省してるなら  
糞を我慢しなかりでも  
ちゃんとして反省文を  
朗読出来るハズだろ?」

「はあ!?!」

「なあに!!  
ちよつと浣腸  
しただけマ」

「ちよつ……!!  
いきなり何  
すんのよーっ!?!」

「ほーら早く読み始めないと浣腸液が染み込んで糞が漏れちゃうぞ?」

「くぅ……キモイ! 本当に最低! 覚えてなさいよ!」

「あアタシ……シャローットは皆を罵つた事を深く反省しており……」

「くそっ! 何よ! 何でこのアタシがウンチを我慢しながら反省文を朗読しなきゃいけないのよ!」

「こんな奴らの見てる前で!」

「服も着せて貰えず裸のままです!」

「屈辱……! 屈辱よ!」

「絶対に許さない! 同じ目に……いやこれ以上の酷い目に遭わせてやるんだから……!」  
「許さない……!」  
「許さない許さない許さない!!!」

「あっ!?!」

「アッ!?!」



「いやっ!!  
やだやだ!!  
やだあああ!!」

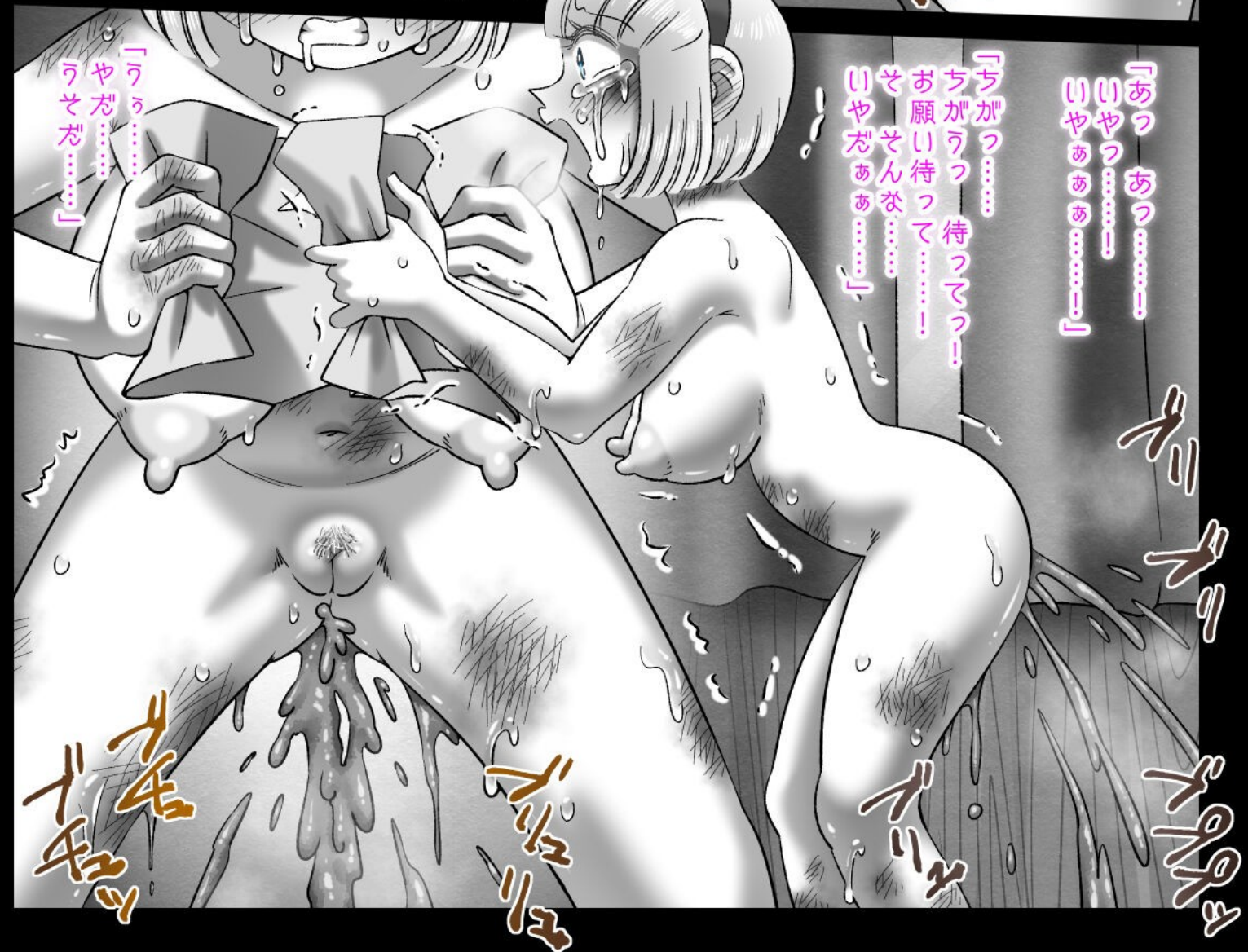
だめっ!!

「あっ!  
待って……!!」

ブリブリ

ヒヤヒヤ

ブリブリ  
ゴブリ



「うう……  
やだ……  
うさだ……」

「あつ あつ……  
いやあ……  
いやあ……」

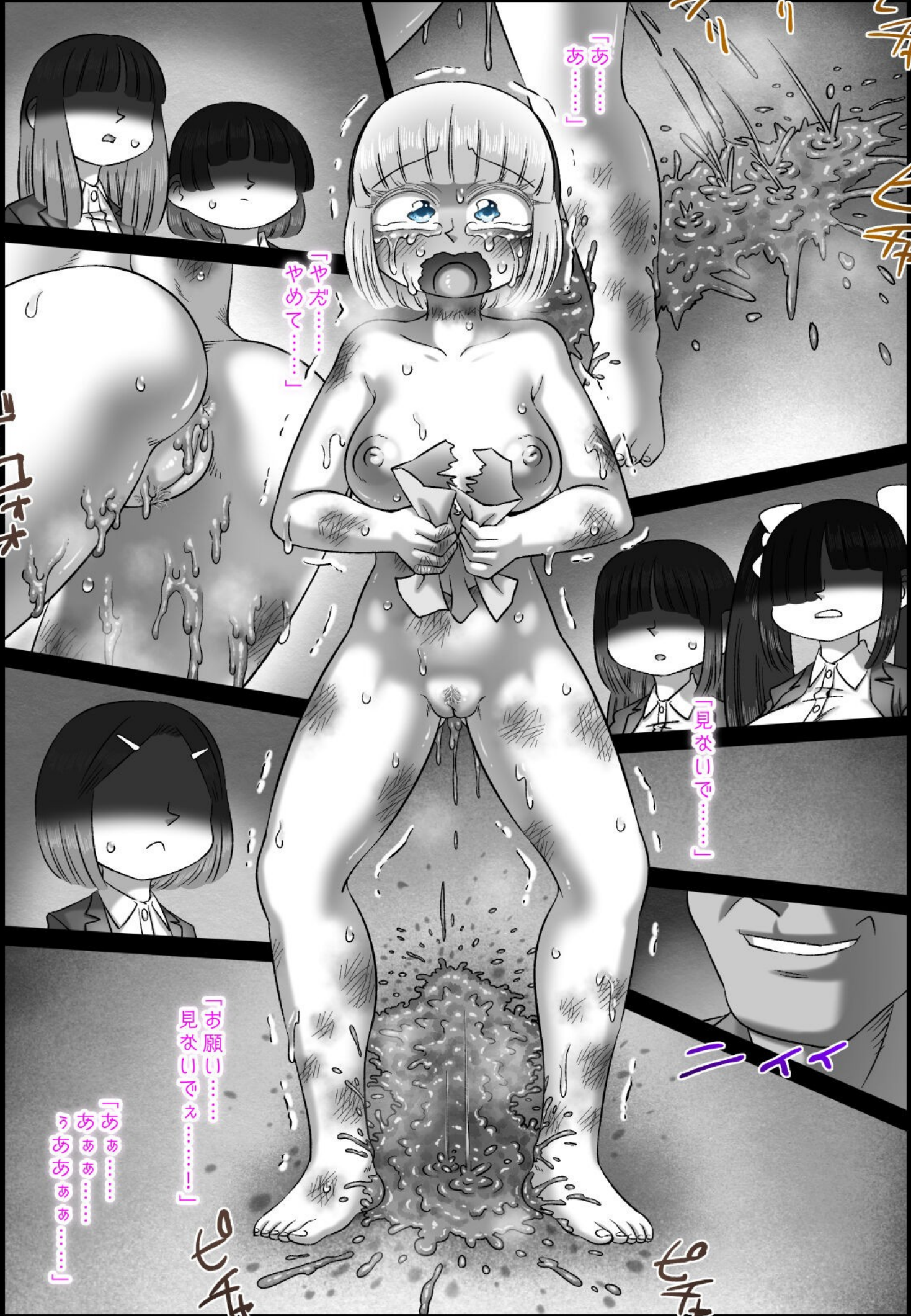
「ちがつ……  
ちがつ…… 待ってっ!!  
お願い待って……  
そんな……  
いやだ……」

ゴブリ  
ゴブリ

ヒヤヒヤ  
ブリブリ

ブリブリ

ブリブリ



「あ……」

「やめて……  
やめて……」

「見ないで……」

「お願い……  
見ないでえ……！」

「あ……  
ああ……  
うあああ……」

ニヤニヤ

ゴッゴッ

びしょ  
びしょ  
びしょ

びしょ

びしょ



「プツッ！」

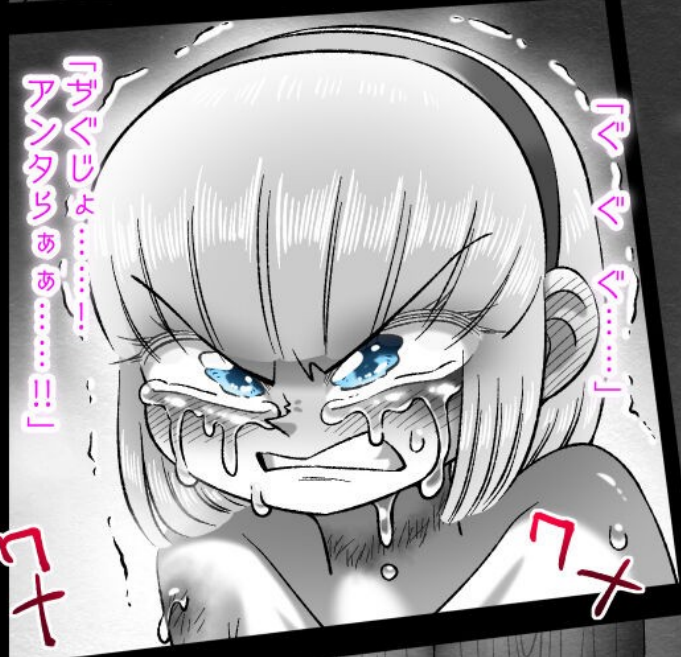
「あははははっ！  
なによそれえっ！」

「あははっ 全部  
出しちゃってる  
じゃない！」

「汚〜い！」

「ヒドい臭い！  
何食べたの!？」

「あの音聞いた!?  
おじさんの  
爆音のおなりより  
凄い音だっ方わよ！」

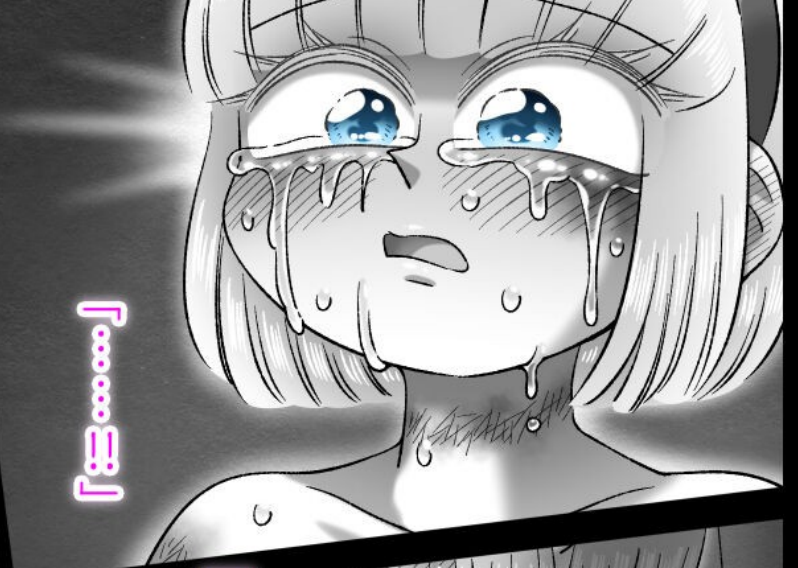


「サくじよ……!!  
アンタらあぁ……!!」

「……!!」

「+」

「+」



「……!!」



「どくろ」

「ふざけんなあ!!」



「ざっけんじゃねえ!!  
あんな浣腸され方り  
漏らすに決まってるだろ!!  
それを笑いやがってるエ!!」

「誰の為に  
謝ってやってると  
思ってるんだ!!」

「凡人風情が  
調子に乗るん  
じゃねえ!!」

「殺すぞ!!」

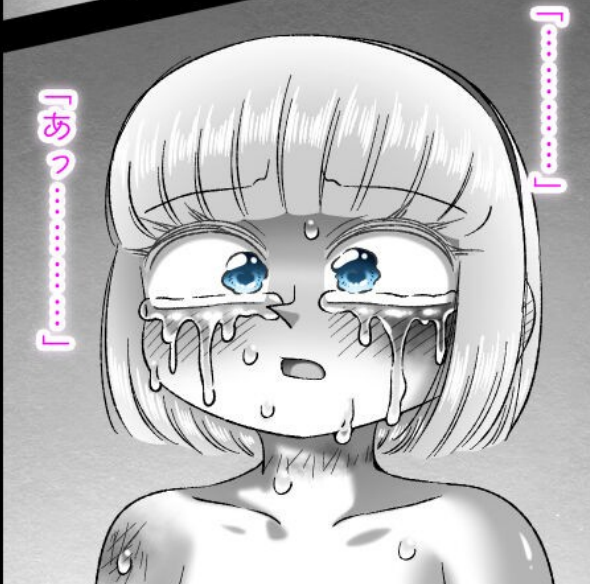
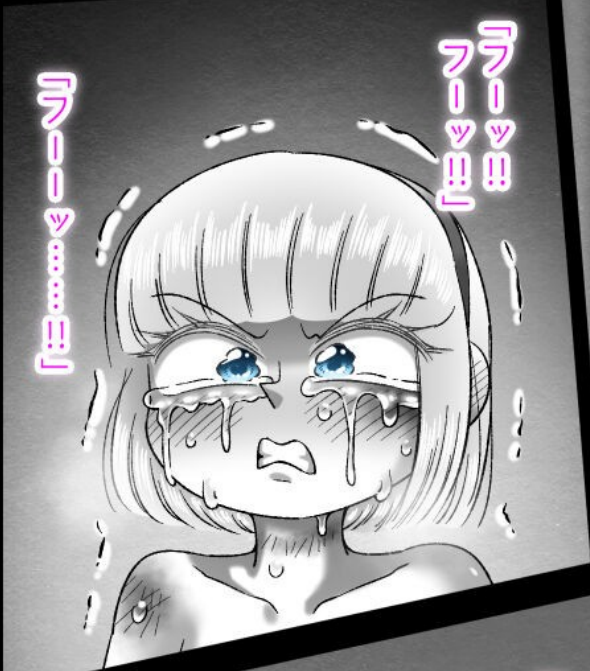


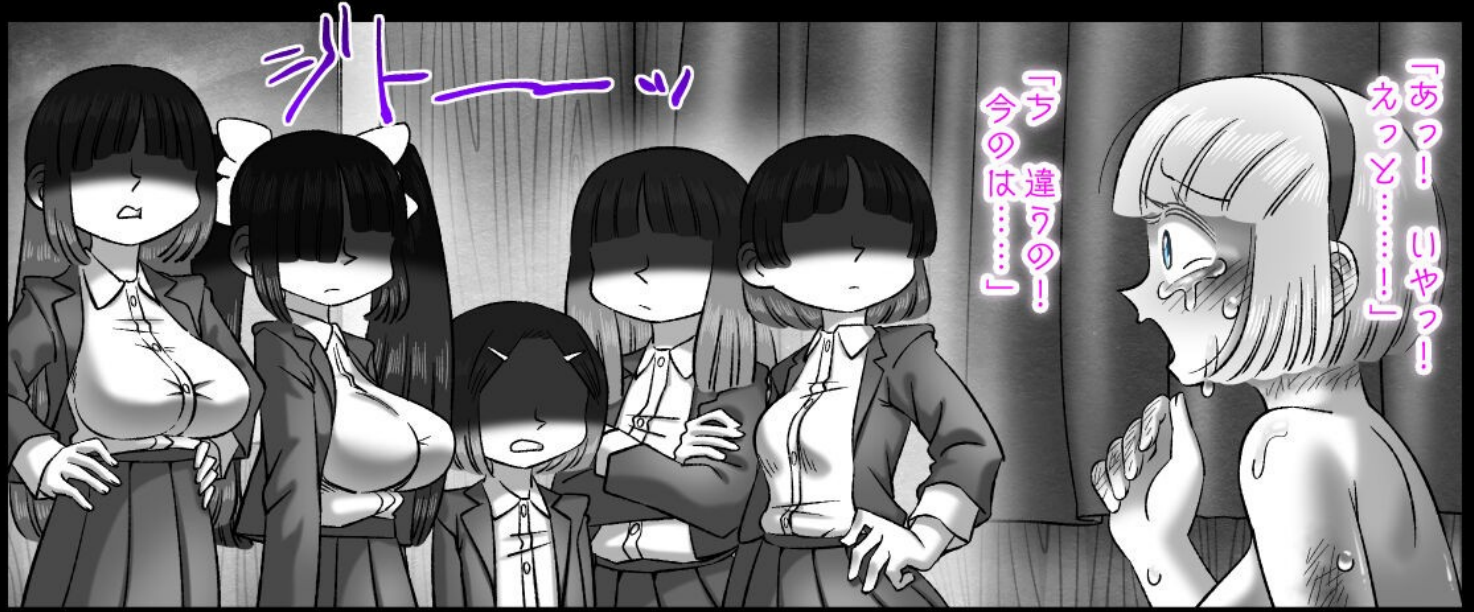
「フリー!!  
フリー!!」

「フリー……!!」

「……」

「あ……」





「あつ！ いやつ！  
えつと……！」

「ち 違うの！  
今は……！」

グッーッ



「ねえ アレ  
反省してるように  
見える？」

「なんにも  
変わってないね」

「前と一緒  
傲慢なまま」

「誰が凡人  
ですって？」

「あーあ  
一瞬でも  
同情して  
損しち！」

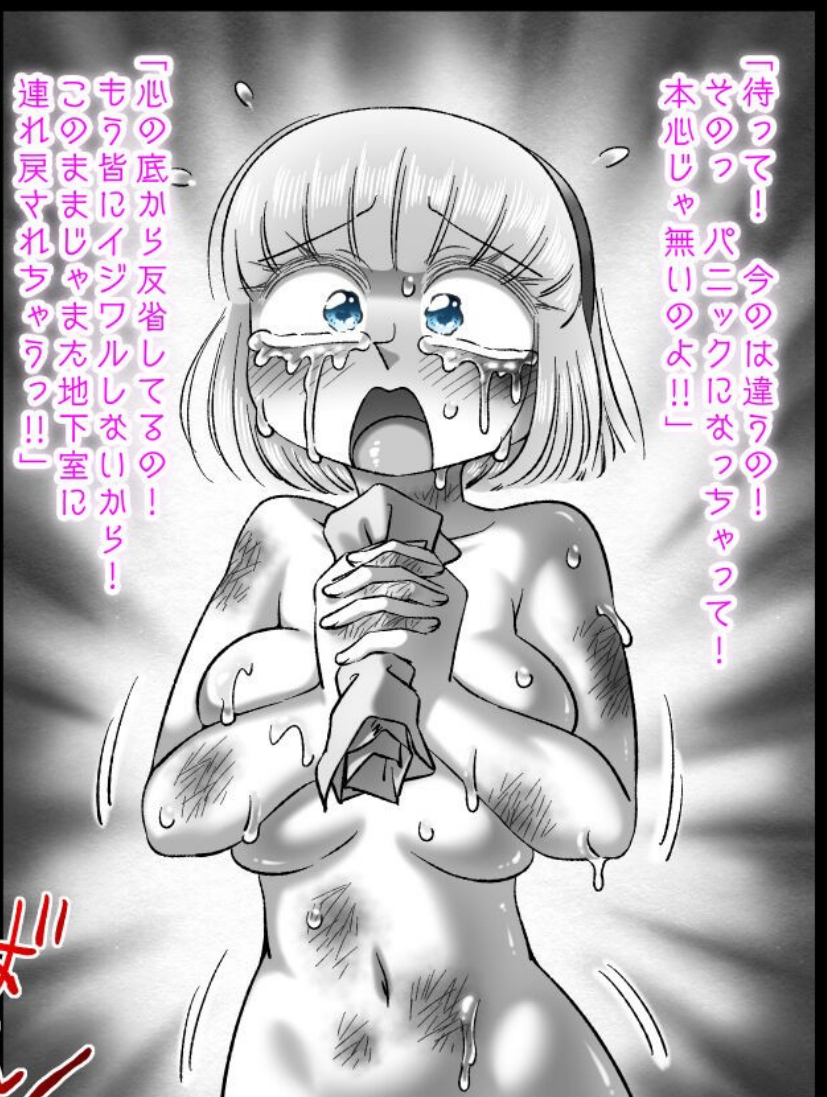


「お願い……  
許して……！！  
レイプマレチャウ  
よお……！！」

「同じ女なら  
気持ちわかる  
でしょお……？」

ガッ

ガッ



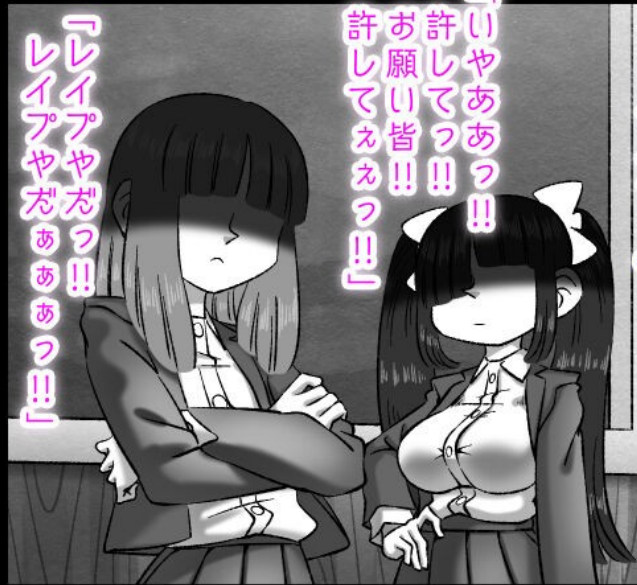
「待つて！ 今のは違うの！  
そのつ パニックになっチャつて！  
本心じゃ無いのよ！！」

「心の底から反省してるの！  
もう皆にイジワルしないから！  
このままじゃま方地下室に  
連れ戻されちゃうつ！！」



「ま……」

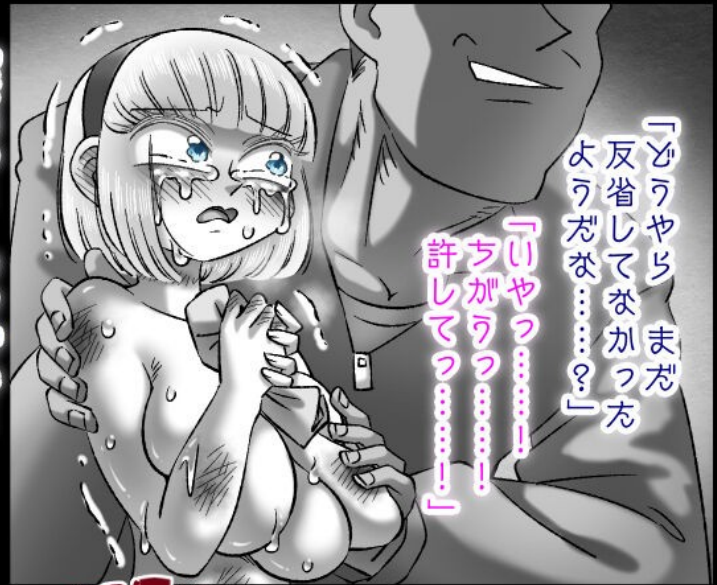
ほん！



「レイプやだっ!!」  
「レイプやだあああっ!!」

「いやああっ!!」  
「許してっ!!」  
「お願い皆!!」  
「許してええっ!!」

「来いっ! クソガキ!  
徹底的にレイプ  
してやる!」



「どうやら まだ  
反省してなかつた  
ようだな……?」

「いやっ……!!」  
「ちがうっ……!!」  
「許してっ……!!」



「ひっ! ひっ!  
やめてっ!!」

「乱暴しないでえええっ!!」

「オラアアアッ!!」

**ボクッ!!**

「ざひひひひひひっ!!」



「黙れ!!  
殺すぞ!!」

「ざやびっ!!」

**ズッ**



「いやっ いやらっ!  
なからしっ!  
いやらああっ!!」

「れいふっ やらっ!  
もおやらああっ!!」

「やらやらっ!  
やらあっ!  
あかひやんっ  
やらああっ!!」

はん! はん!  
はん! はん!  
はん! はん!

ジュル  
ジュル  
ジュル

「はひゅるるっ  
はひゅるるっ  
いやら……」

「もおやら……  
ゆるちて……  
レイプやら……  
ごめんなしゃい……」

あは  
あは  
あは

「オラ!!  
三発目の中出し  
全部飲み込め!!」

ゴボッ

ビク  
ビク

チュッ!

ゴロ

「ごめん  
済むがア!!」

「ひざいっ!!」





「オラ！  
レイアの時間だ！  
股開きやがれ！」

「ギゃああつ！  
やだつ！ やだああつ！  
レイアやだああつ！！」

「ペンギンしゃんつ！  
シャーリーの  
ペンギンしゃんの  
ぬいぐるみよこおつ！？」

「知りねえよ！！  
ギンギンのペニスなら  
ここにあるケドよあ！！」

「やだああつ！！  
レイアやだのおおつ！！」

ぎいっ

ブル

ブル

「クソガキ！！  
クソガキ！！  
犯マレろ  
クソガキ！！」

「んぐえつ！  
おげえつ！  
だじゅげえつ！！」

「ラッ……  
ラッ……」

「ふーっ  
ふーっ……  
あかちゃん  
でさちやう……」

ムムム

「赤ちゃん出来るだ？  
もう出来てんだよ！！」

「ラしよつ！  
ラしよらつ！」

「よく見ろ！！  
テメエはもう  
妊娠してんだよ！！」

「いやつ！  
いやああつ！！」

△判定 △終了

ホホホ

ガッ

ガッ

ゼクン!

「金髪美少女生オナホは  
今日も気持ち良いゼエ!」

「ラッ……  
ラッ……」

「もっとな色っぽい声で  
鳴けねえのがコラッ!!」

「んざいっ!!」

んざいっ!!

はぁん!!

はぁん!!

「はっ  
はっ……」

たっん!!

たっん!!

「だいが腹も  
膨れて来たなァ!」

「赤ん坊に挨拶だ!  
腰を振れ! 腰を!」

「はあっ はあっ  
はいつ……!」

はぁん!!

はぁん!!

はぁん!!

はぁん!!





「んおっ……!!」

「んおっおっ!!」

「ふー 出た出た  
スッキリしちせ  
今日もありがとよ  
シャーリー!」

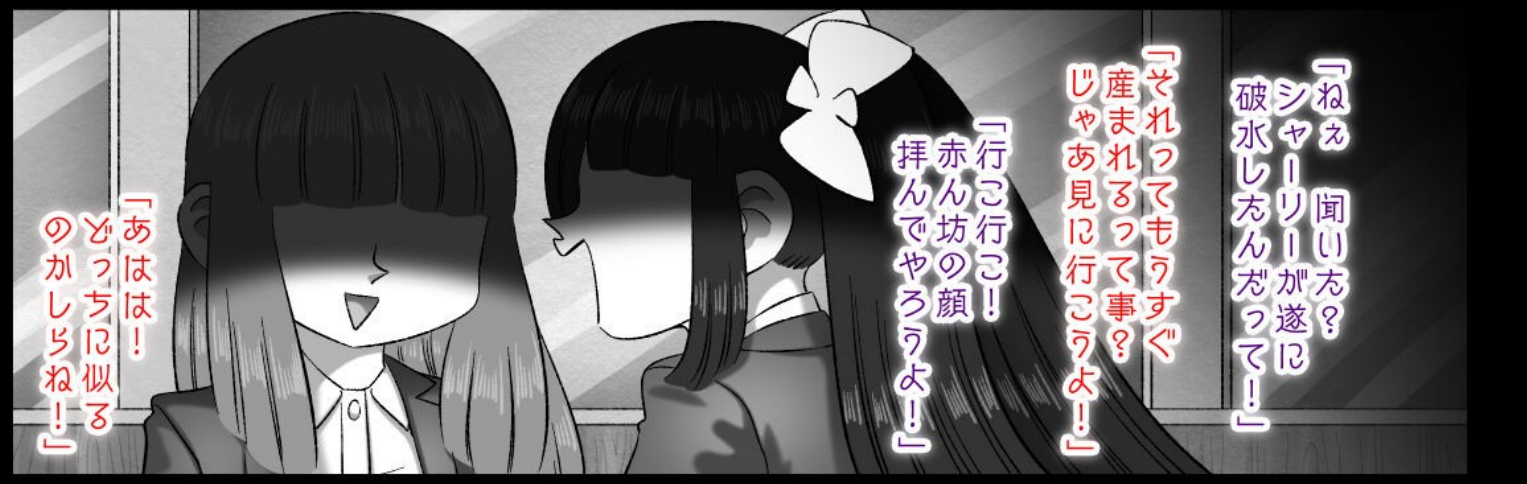
「う……  
ん……」

「最近はお行儀の良い  
ガキが多くて退屈だぜ  
そのクセ発育はしっかり  
してやがるから  
ムラムラして仕方がねえ」

「皆 お前みちいな  
問題児ばかりなら  
容赦なく地下室送りに  
出来て楽しめるんだがな」

「ま もうしばらく  
お前には頑張つて  
もらうからよオ!」

「よろしく頼むぜ  
シャーリー!」



「ねえ 聞いた?  
シャーリーが遂に  
破水したんだって!」

「それつてもうすぐ  
産まれるって事?  
じゃあ見に行こうよ!」

「行こうよ!  
赤ん坊の顔  
拝んでやろうよ!」

「あはは!  
どっちに似る  
のかしらね!」

「よかつた〜！  
間に合っ ちみちい」

「うわ〜！  
ほんがすごい  
生臭いね〜  
羊水の臭い？」

「うっ うっ……  
うぐっ……  
産まれる……  
産まれるう……」

「苦しいよ……  
だ だれか……  
助けてえ……」

ぴゅっ

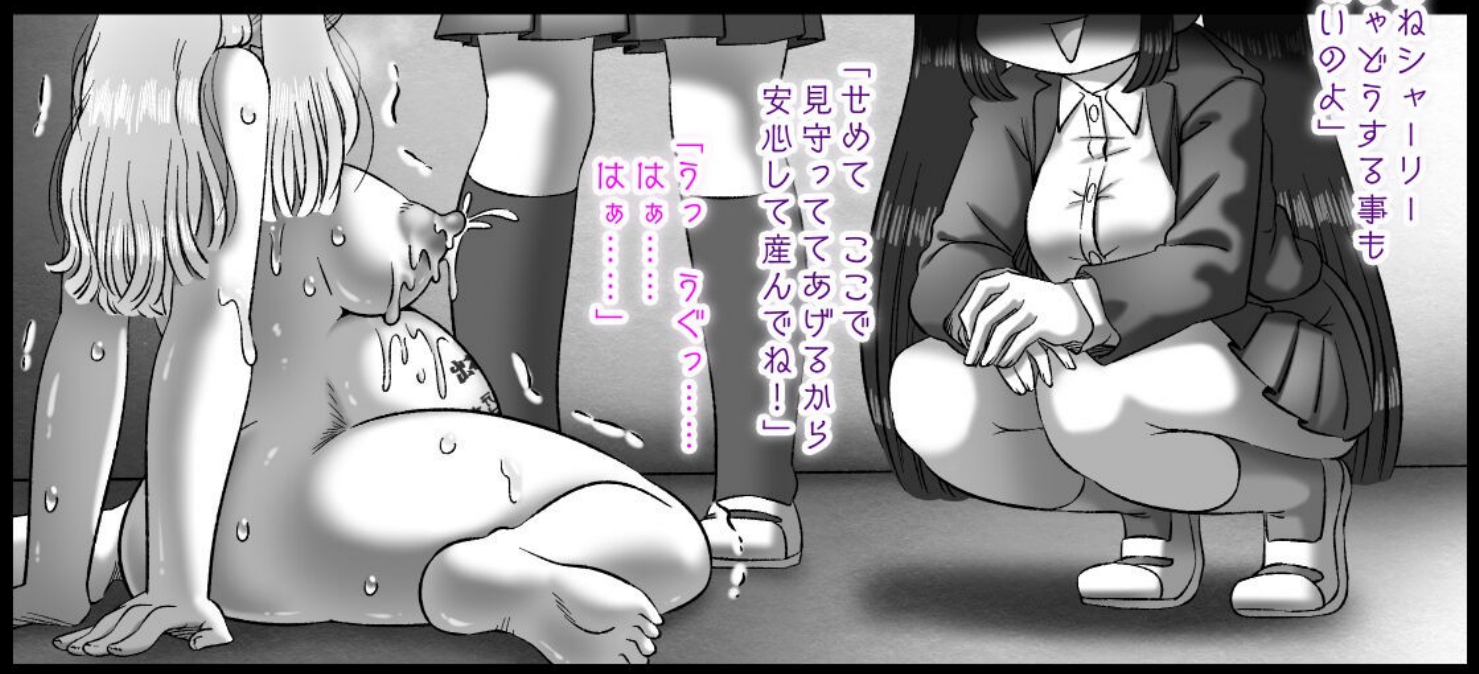
ぴゅっ

日産予定  
2/0  
無精  
オナホ  
生精  
産卵  
頑張れ！  
即受精  
オナホ  
性挿入  
配合  
産卵  
産卵  
産卵

「ごめんねシャーリー  
私達じゃどうする事も  
出来ないのよ」

「せめて、ここで  
見守ってあげるから  
安心して産んでね！」

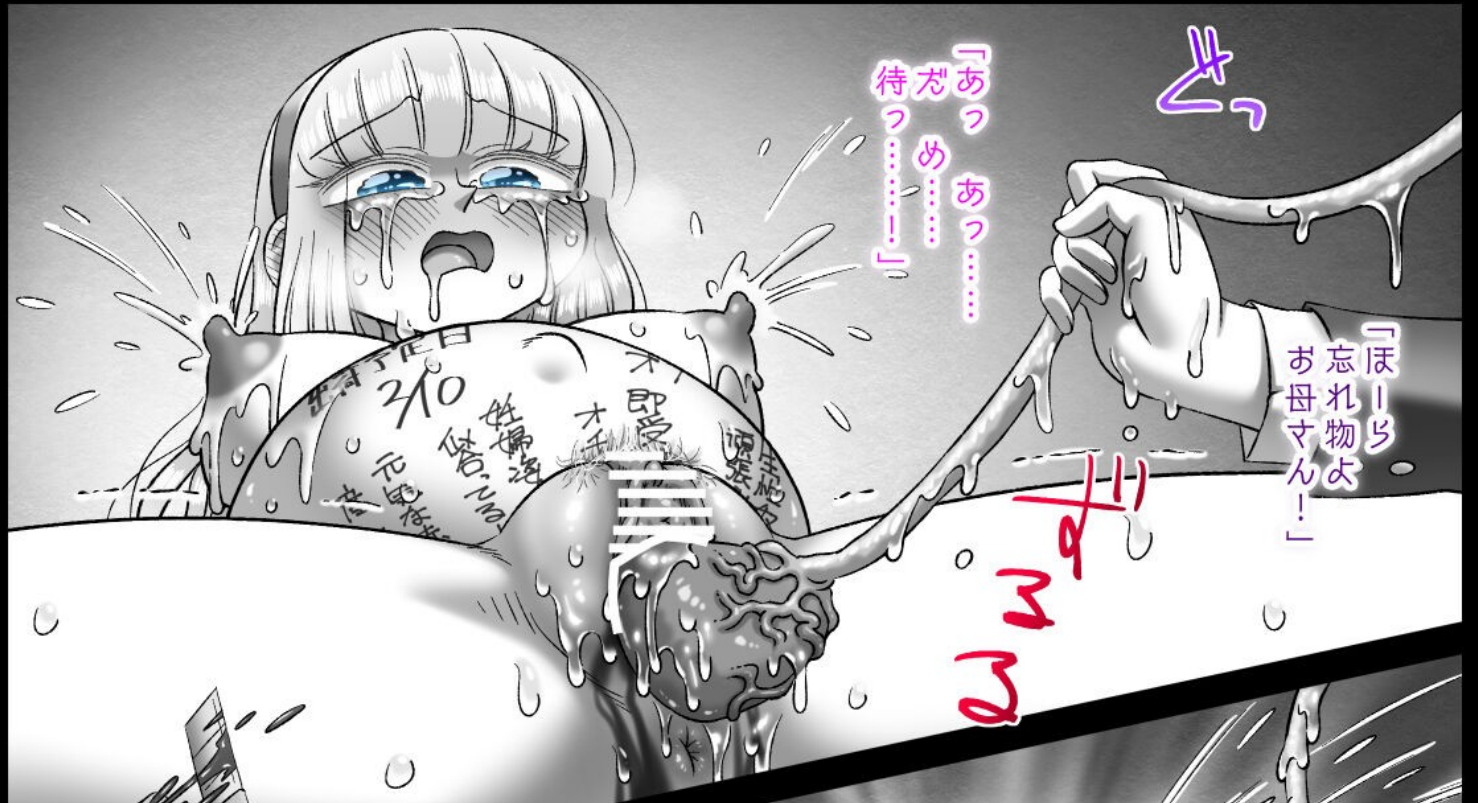
「うっ うぐっ……  
はあ……  
はあ……」







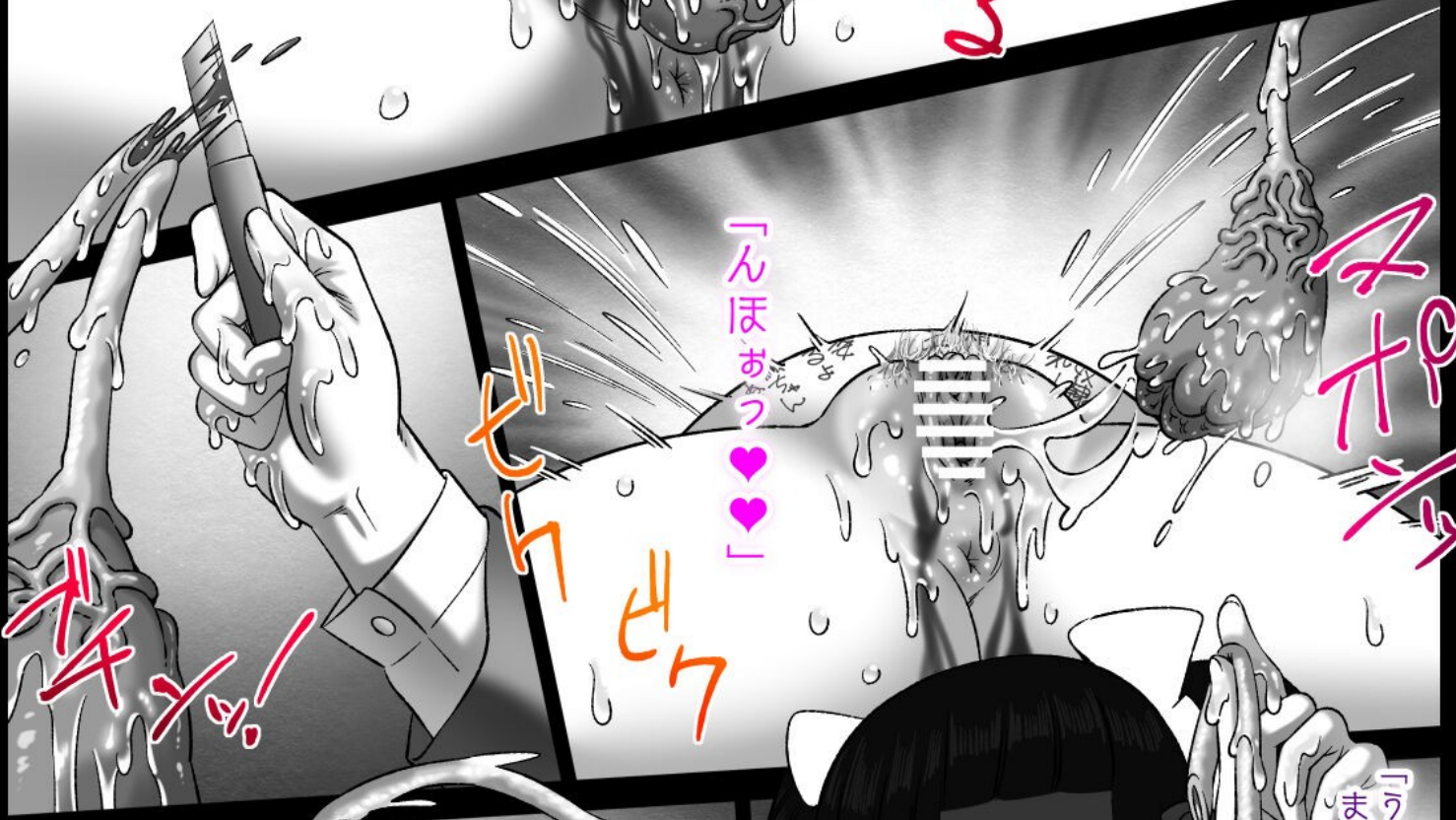




「あつ あつ...  
待つ...」

「ほーろ  
忘れ物よ  
お母さん！」

あつあつあつ



「んほあつ♡♡」

あつあつあつ

あつあつあつ



「うわろぐろ...  
まんま内蔵ね...」

「ほらよ！  
コイツはアタに  
返すわ！」

「あつあつ...」

「良い物見せて貰ったわ シャーリー」

「他の皆にも可愛い赤ちゃんを見せびらかせてあげなきゃね」

「アンタはそこでゆっくり休んでなまいな」

「ま……待って……赤ちゃん……アタシの赤ちゃん……」

「連れてかないで……アタシの赤ちゃんなのよ……」

おま

「まさかアンタ育てるつもり？ ダメダメ！」

「アンタみちいなクズが育てろ性格が歪むわ！」

「うそ……いや……待って……」

「この子は皆で優しい子に育ててあげる」

「お願い……赤ちゃんを連れてかないでえ……」

「そんなに赤ちゃんが欲しいならまろ先生に孕ませてもらっただろ？」

「じゃあね シャーリー元気でレイプマレ続けてね」

終

